



 www.golldookht.com

 #golldookht

 @golldookht

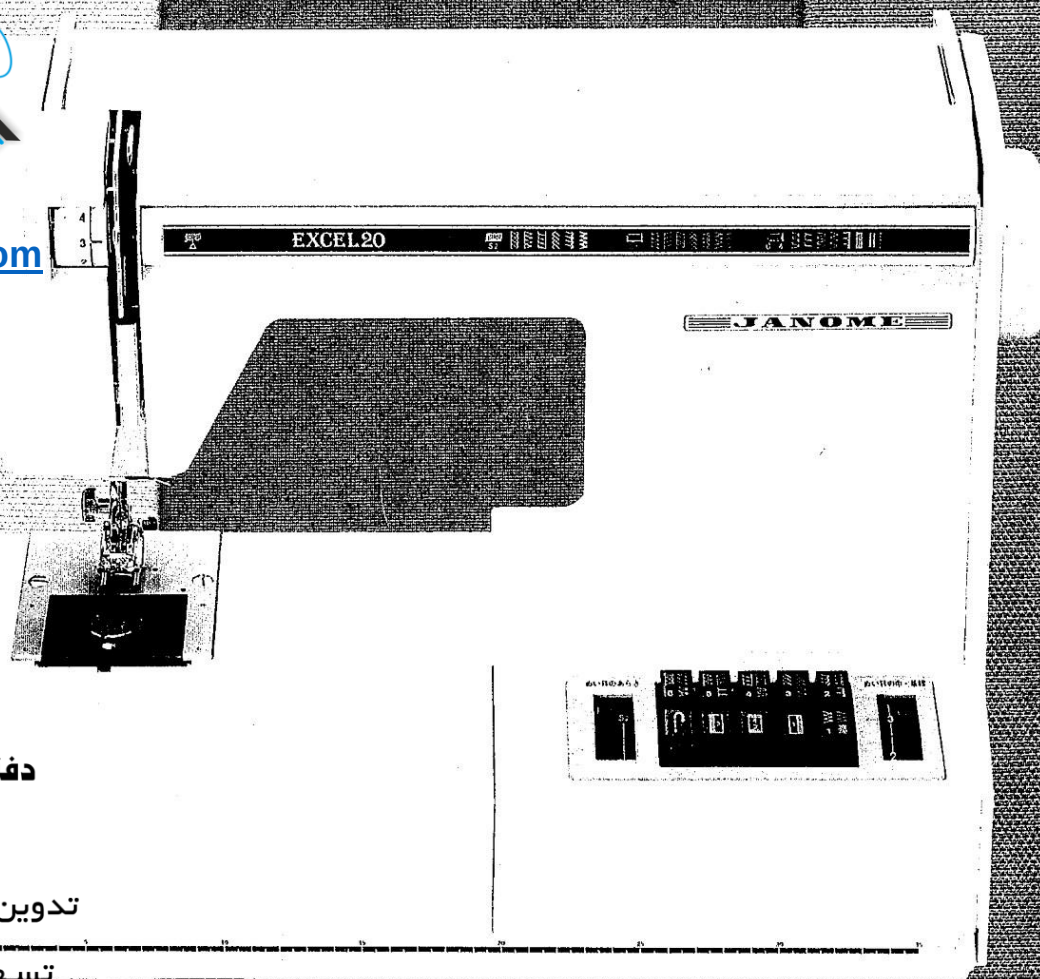
دفترچه راهنمای چرخ خیاطی

ژانومه مدل 627

تدوین شده توسط گروه گلدوخت جهت

تسهیل استفاده برای مخاطبان عزیز

بصورت PDF



EXCEL 20 627型
ジャノメ エクセル 20 使い方の手びき

●目次

1. 準備

- 各部の名まえとはたらき.....2～3
- 早見板と押えポケット.....4
- 標準付属品.....5
- 補助テーブルのはずし方、つけ方.....5

2. 使い方の基本

- 電源のつなぎ方.....6
- スライドスイッチの使い方.....6
- 速さの調節のし方.....6
- 照明ランプ.....6
- ドロップレバーの使い方.....7
- 押え圧ダイヤルの使い方.....7
- 押えのあげ方、さげ方.....8
- 押えのはずし方、つけ方.....8
- 押えホルダーのはずし方、つけ方.....9
- 布と糸と針の関係.....10
- 針のはずし方、つけ方.....10
- 下糸の巻き方.....11
- ボビンの出し方、入れ方.....12
- 上糸の掛け方.....13
- 糸通しの使い方.....14
- 下糸の引きあげ方.....15
- 糸調子の出し方.....15
- 送りダイヤルの使い方.....16
- 振巾ダイヤルの使い方.....17
- 模様選択ボタンの使い方.....17

3. 基本縫い

- 直線縫い.....18
- ジグザグ縫い.....19

4. 実用縫い

- 裁ち目かがり.....20～22
- ストレッチ(伸縮)縫い.....23
- ボタン穴かがり(ボタンホール)24～25
- 芯入りボタン穴かがり.....25～26
- くけ縫い(まつり縫い).....27
- ファスナーつけ.....28～29
- コンシールファスナーつけ.....29～30
- 三つ巻き縫い.....31
- 三重縫い.....32
- 筒縫い.....32

5. 応用縫い

- 自動模様縫い.....33
- 合成模様縫い.....34
- ピンタック.....35
- スモッキング.....35
- キルティング.....36
- シェルタック.....36
- アップリケ.....37
- パッチワーク(はぎ合わせ).....37
- レースつけ.....38
- ファゴティング.....38
- ギャザーよせ.....39
- ドロンワーク.....39
- カットワーク.....40
- フリンジ縫い.....40

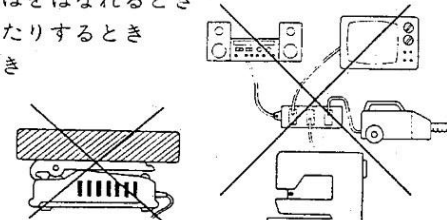
6. 手入れと調整

- 外装の手入れ.....41
- かまの掃除.....41
- かまと送り歯の手入れ.....42
- ミシンの調子が悪いときの直し方.....43～44

●おとり扱いについてのお願い

★より安全のために.....

- ①ミシンを動かしているとき、針から目をはなさないように注意し、はずみ車、天びん、針などに手を触れないでください。
- ②つぎのようなときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。
■使用後 ■ミシンのそばをはなれるとき
■部品をつけたり、はずしたりするとき
■ミシンの手入れをするとき
- ③コントローラーの上には、物をのせないでください。
- ④たこ足配線は、危険ですからやめましょう。



★ご使用の前に.....

- ①ほこりや油などで布を汚さないように、使う前にミシンをよくふいてください。
- ②ミシンのセットや、押え、針を交換するときには、早見板やこの《使い方の手びき》を見て、正しく、確実にセットしてください。
- ③ミシンをセットしたら、実際に縫うものと同じ布や糸で試し縫いをしてみましょう。

★いつまでもご愛用いただくために.....

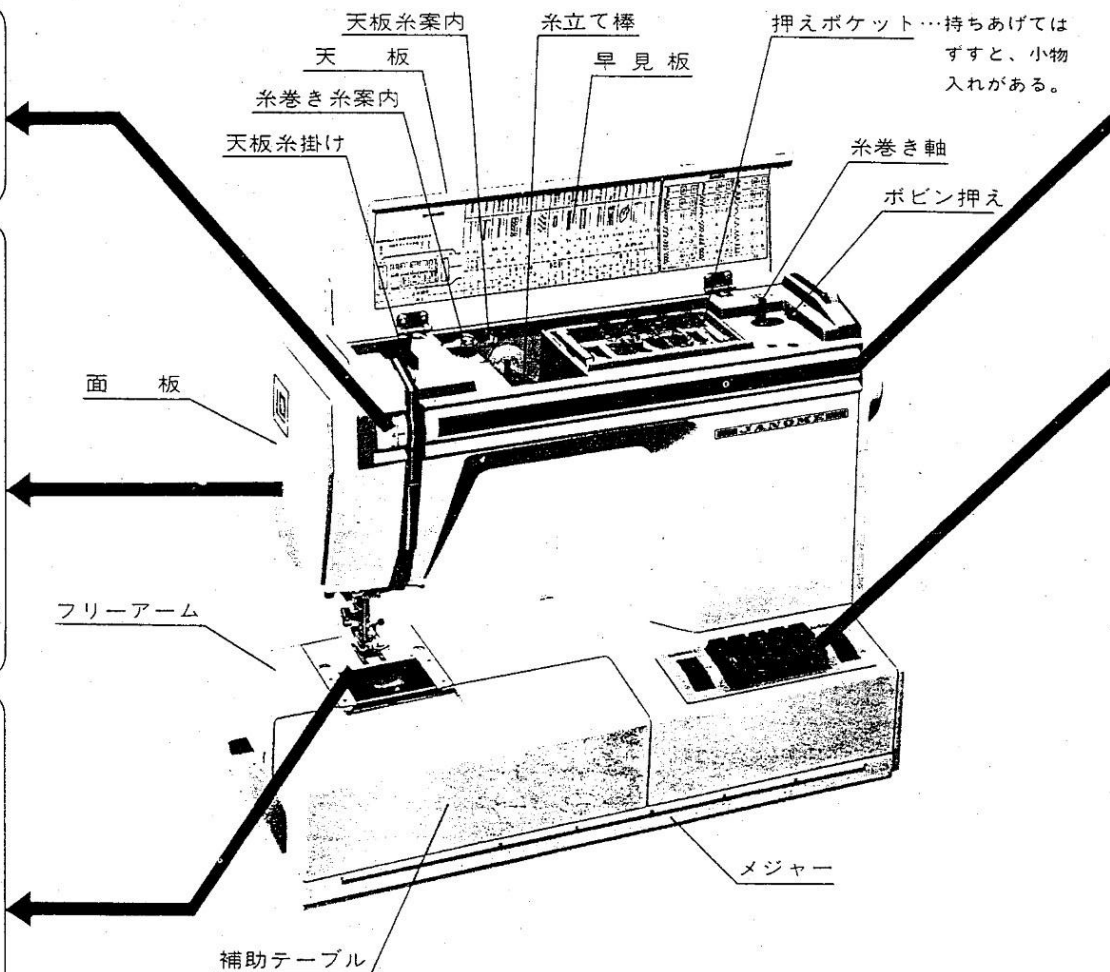
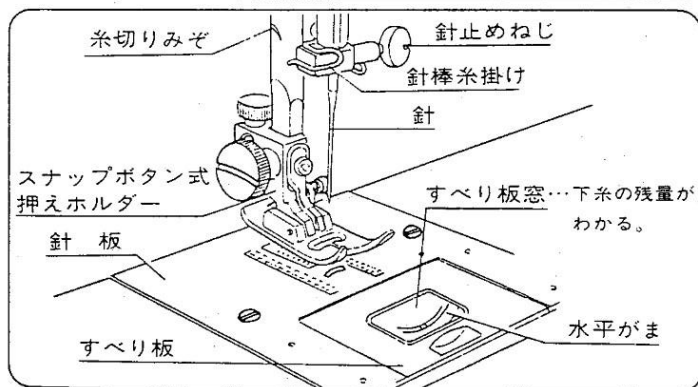
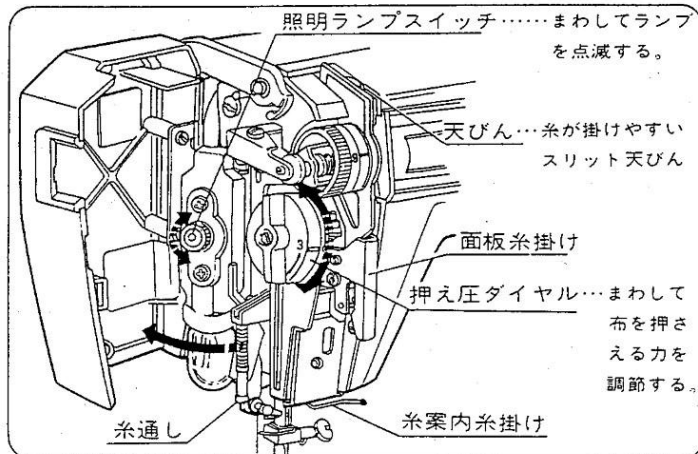
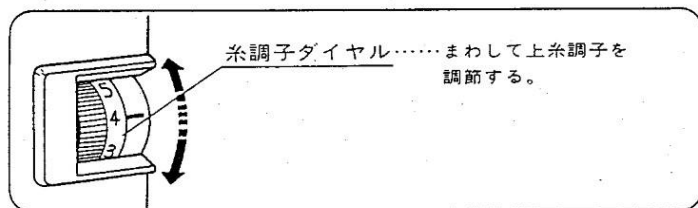
- ①このミシンは注油の必要がありません。
- ②長時間日光にあてたり、ストーブのそばに置いたりしないでください。
- ③湿気の多いところはさけてください。
- ④落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

●修理、調整についてのご案内

万一不調になったり、故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(43～44ページ)により点検・調整を行なってください。それでも調子が悪いときは、お買い上げいただいた支店、または近くの支店へご連絡ください。

●各部の名まえとはたらき

1
準備



シグナルパネル

EXCEL 20

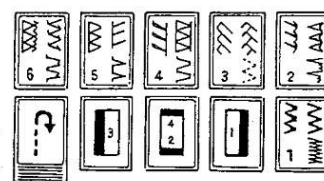
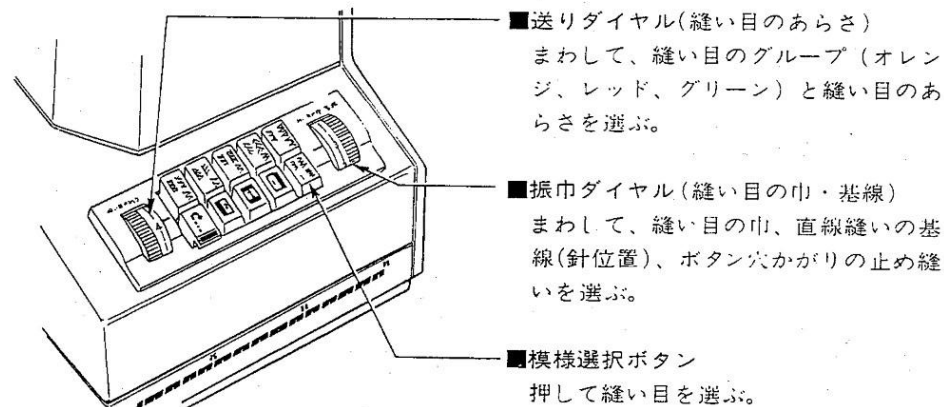
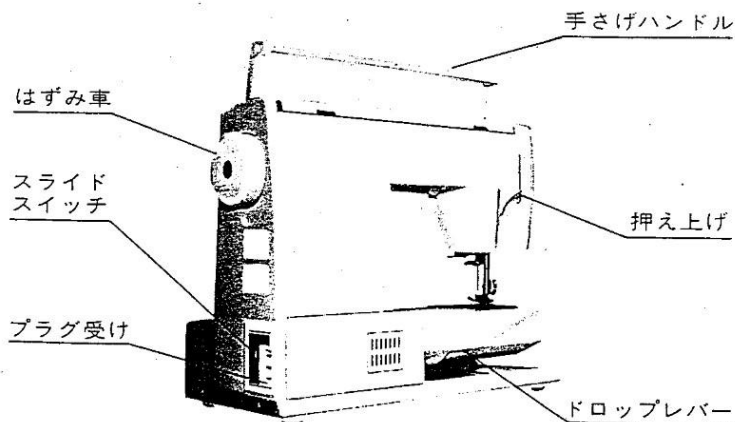
糸通しシグナル

オレンジシグナル

レッドシグナル

グリーンシグナル

オレンジ、レッド、グリーンの3色のシグナルが、選ばれた模様グループを示すカラーシグナルシステムです。早見板の表示にしたがってダイヤルやボタンをセットすると、パネル上に点灯するシグナルは、選んだマークの色と一致します。また、糸通しシグナルは、糸通しに最適な針の高さで、オレンジ色に輝きます。



ボタン穴かがりボタン.....ボタンを1 → 2 → 3 → 4の順に押す。

返し縫いボタン.....押している間は、返し縫いをする。

●早見板と押えポケット

縫いの種類		直縫 縫い	三重縫 縫い	肩ひしき 縫い	レシーチ 縫い	バネ縫 い	マダガ スカー 縫い	ハルビ ン縫 い	ホカフ ン縫 い	穴か かり 縫い	かがり 縫い	かがり 縫い	かがり 縫い	三つ 巻き 縫い	フラス ター 縫い	アフリ カン 縫い	くし 縫い	花 縫い
● 弱中強は上糸調子の目安を示す 弱……本調子ダイヤ目盛 中…… 強……																		
		1.5~4	S1	0.5~1.5	S1	S1	1.5~4	S2	1.5~3	1.5~4	1.5~4	0.5~1	1~3	1.5~3				
上糸調子 押え		中	中	弱	弱	弱	中	弱	弱	弱	中	中	弱	弱	中	弱	弱	中
		A	A	A	A	A	A・H	B	C	C	D	E	B	G	G			

使用する押えを示す。

· 使用例

※ダイヤルやボタンは、早見板の上から順にセットしてください。

かがり縫いステッチを縫う場合

送りダイヤル(縫い目のあらさ)

振巾ダイヤル(縫い目の巾・基線)

模様選択ボタン

糸調子ダイヤル弱(0~4)の範囲で選ぶ

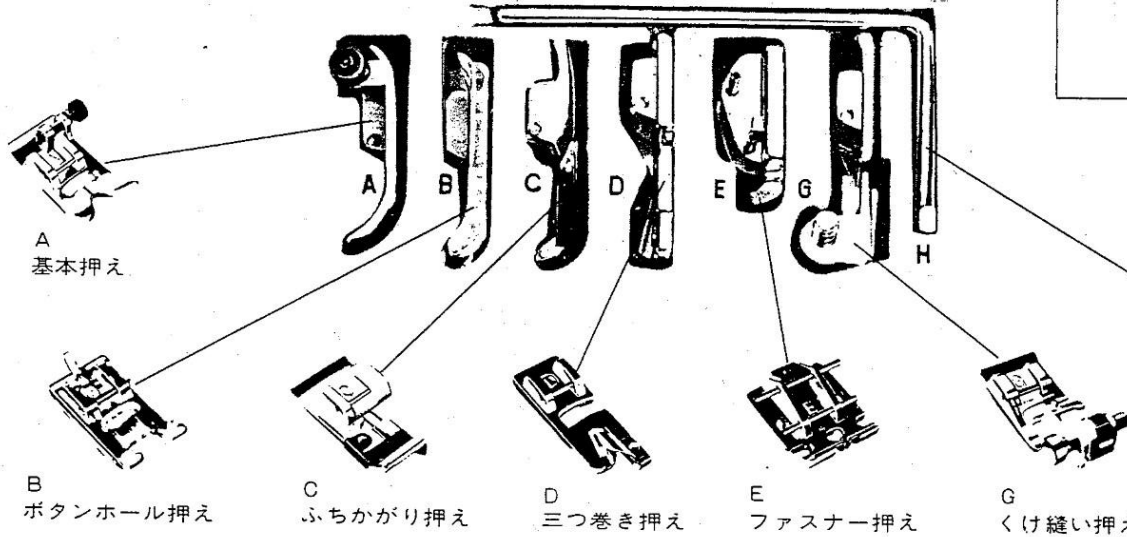
押え

上糸調子の目安を示す。

弱…米調子ダイヤル目盛 0～4

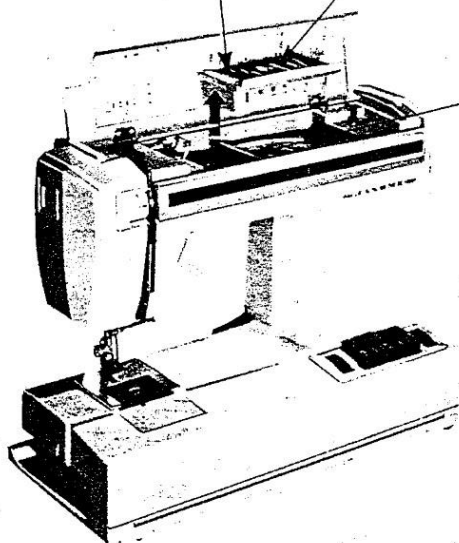
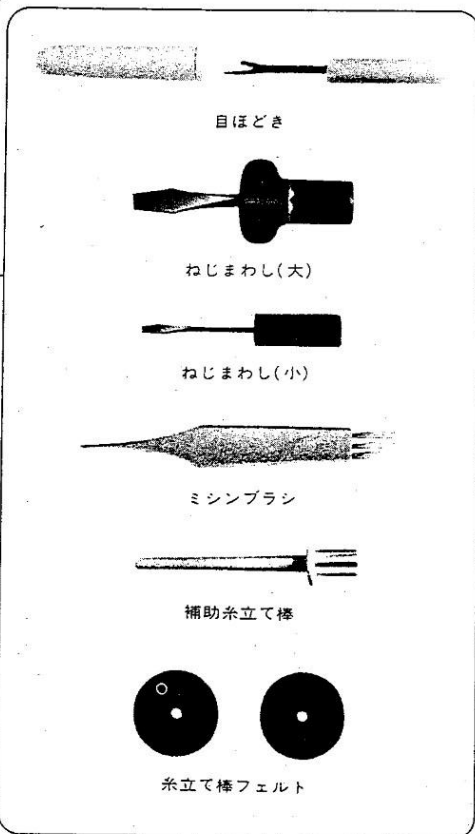
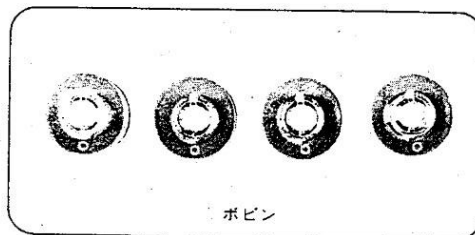
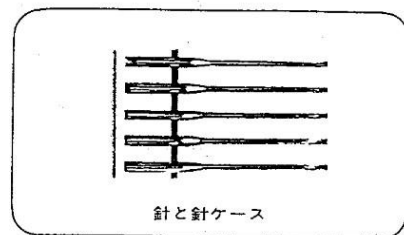
中... " " " 3 ~ 6

強… " " " 5-9

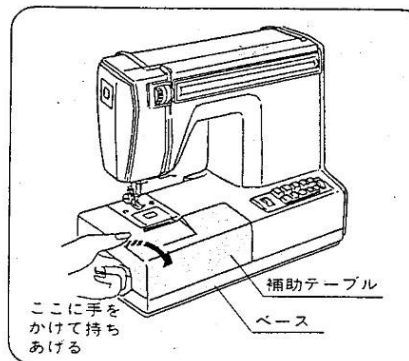


※押え類はきめられたところにきちんとしまってください。

●標準付属品

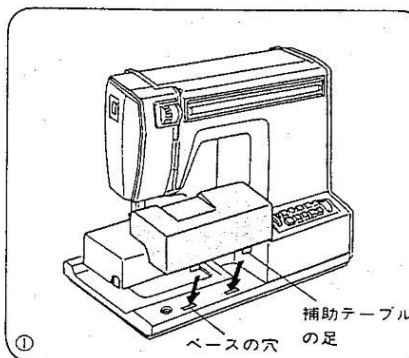


●補助テーブルのはずし方、つけ方



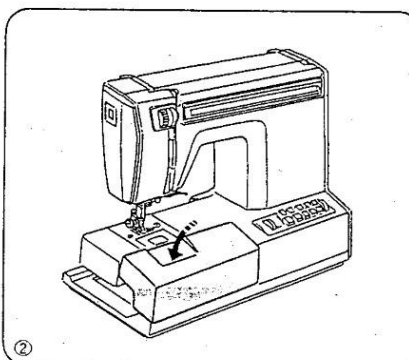
《はずし方》

補助テーブルの下側に手をかけて持ちあげる。



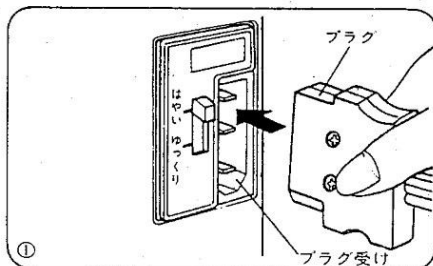
《つけ方》

① ベースの穴に補助テーブルの足を合せてのせる。

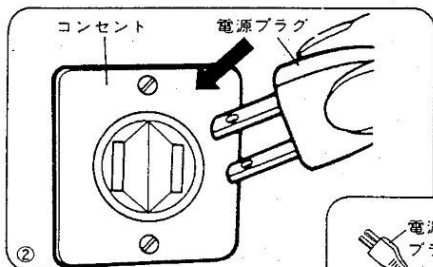


② 上から軽く押す。

●電源のつなぎ方

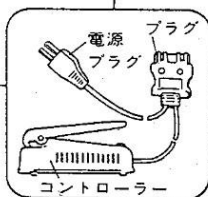


①プラグをミシンのプラグ受けのみに合わせてさしこむ。

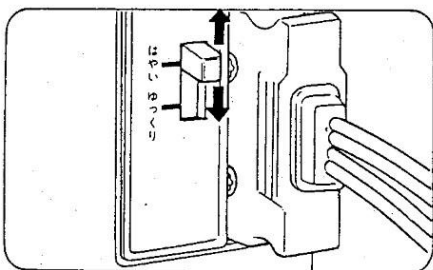


②電源プラグをコンセントにさしこむ。

※電源は、一般家庭用(100V 50/60Hz)電源以外の動力用や発電機は、使わないでください。



●スライドスイッチの使い方

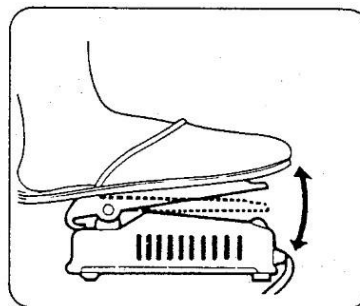


スイッチの上下で調節する。

は や い……………速く縫うとき
ゆ っ く り……………遅く縫うとき

※ミシンの運転中は、スイッチの切りかえをしないでください。

●速さの調節の仕方



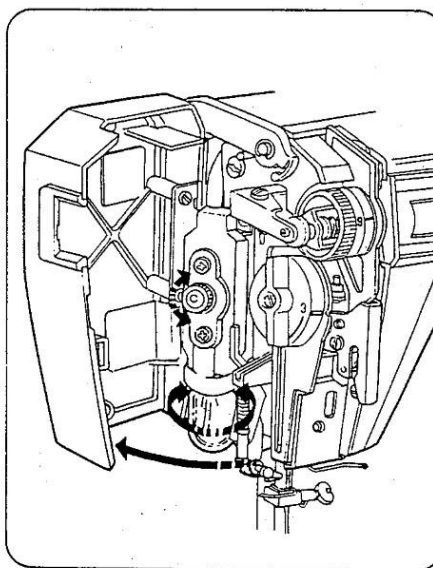
コントローラーの踏みこみで調節する。

浅く踏みこむ……………おそい

深く踏みこむ……………はやい

※押えをあげ、糸を掛けなくてコントローラーを踏み、速さと踏みこみの関係になれてください。

●照明ランプ



《点滅の仕方》

面板をひらいて、スイッチつまみをまわす。

《電球のとりかえ方》

はずすとき……………左にまわす。

つけるとき……………右にまわす。

※安全のため、ミシン使用時はランプを取付けておいてください。

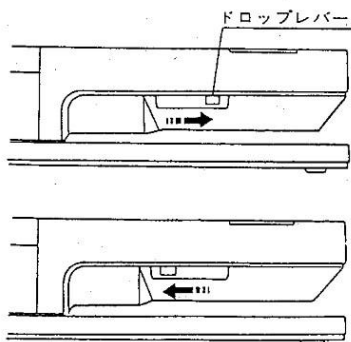
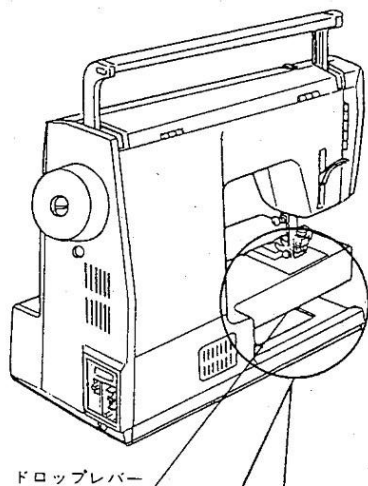
※電球のとりかえは、電源プラグを抜いてから行なってください。

※電球(照明用 100V-12W)は、ジャンメシ直営支店でお求めください。

●ドロップレバーの使い方

ししゅう又は別売のアルファベットステッチ、オーバルステッチ、フラワーステッチなどを使用する場合はドロップレバーを操作して送り歯をさげます。

※通常は送り歯をあげた位置にセットしておきます。

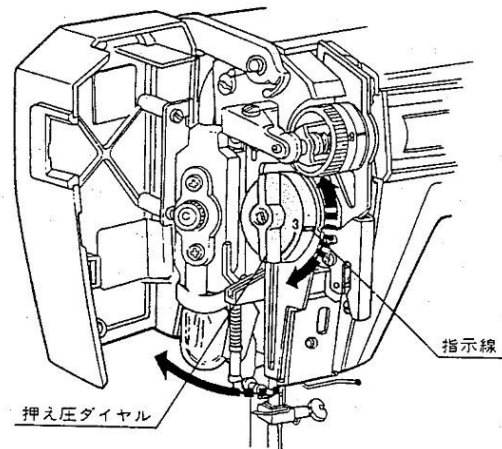


■送り歯をあげた位置

■送り歯をさげた位置

●押え圧ダイヤルの使い方

通常はダイヤルの数字「3」で縫い、つぎのような場合に調節します。



《押え圧をかえる場合》

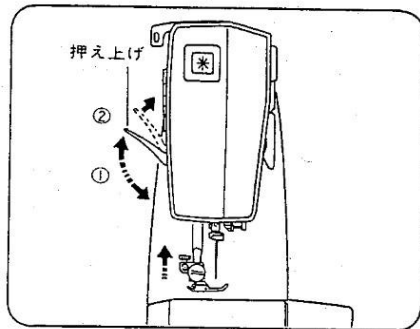
- アププリケ、カットワーク、ドロンワークなどのとき 数字「2」
- うすい布や化繊地、伸縮性のある布などで、縫い縮みしたり、そり返ってうまく縫えないとき 数字「1」

《押え圧のかえ方》

ダイヤルをまわし、目盛りと指示線を合わせる。

※押え圧ダイヤルを動かしたときは、あとで「3」の位置に戻してください。

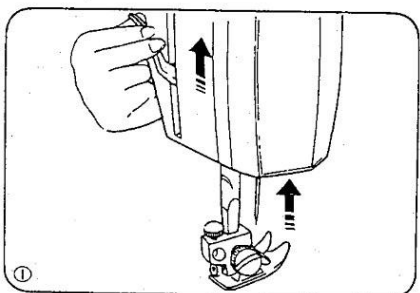
●押えのあげ方、さげ方



①押え上げをあげさげして、押えをあげたり、さげたりする。

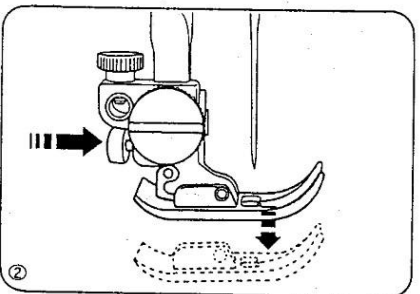
②押え上げをあげた位置より、さらに高くあげると、押えはさらにあがる。

●押えのはずし方、つけ方



《押えのはずし方》

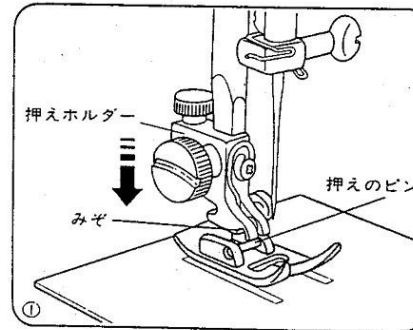
①針と押え上げをあげる。



②押えホルダーの赤色ボタンを押して、押えをはずす。

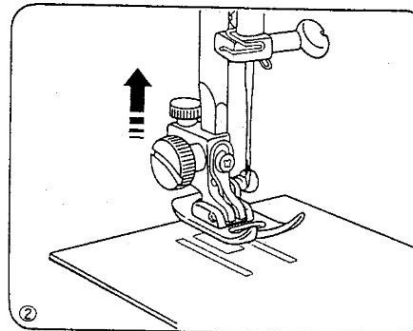
※押えを無理に引いてははずさないでください。

《押えのつけ方》



①押えのピンを押えホルダーのみぞの真下において、静かに押え上げをおろす。

※押えをつけるときは、押え圧ダイヤルを「3」に合わせてください。
(7ページ参照)



②ピンがみぞにはいったら、押え上げをあげる。

※下に示した押えも、同じ要領でつけられます。ファスナー押えのつけ方はつぎのページを参照してください。



B ボタンホール押え



D 三つ巻き押え



C ふちかがり押え



G くけ縫い押え

●押えホルダーのはずし方、つけ方

《ファスナー押えのつけ方》

- ①押えの後方のピンをホルダーの後ろのみぞに入れる。

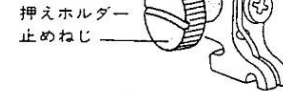
※押えをつけるときは、押え圧ダイヤルを「3」に合わせてください。(7ページ参照)

- ②押えの前側のピンを、押えホルダーのみぞの真下において、静かに押え上げをおろす。

別売のアルファベットステッチ、オーバルステッチ、フラワーステッチなどを使用する場合と、かまと送り歯の手入れをする場合を除いては、押えホルダーをはずす必要はありません。

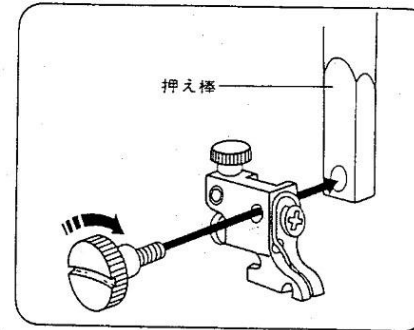
《押えホルダーのはずし方》

押えホルダー止めねじを、ねじまわして左にまわす。



《押えホルダーのつけ方》

押えホルダーの穴と押え棒のねじ穴を合わせ、押えホルダー止めねじをさしこみ、ねじまわして右にまわしてしっかりつける。



●布と糸と針の関係

布に適した糸と針の目安			
布		糸	針
うすい布	クレープ	細手絹糸 細手綿糸 (細手化繊糸)	9 番 または 11 番
	デシン ボイル ローン オーガンジー ジョーゼット		
普通の布	普通もめん	絹糸50番 綿糸50番～80番 (化繊糸50番～60番)	11 番 または 14 番
	ピケ サージ その他一般服地		
厚い布	デニム	絹糸50番 綿糸40番～50番 (化繊糸40番～50番)	14 番 または 16 番
	ツイード ギャバジン コート地		

※一般にうすい布には、細い糸と細い針を、厚い布には、太い糸と太い針を使用します。
この表を目安に糸と針を選び、試し縫いをして確かめてください。

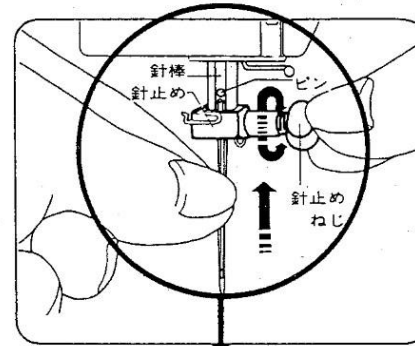
※原則として上糸と下糸は、同じものを使用してください。

※伸縮性のある布(ジャージー、トリコット)や目のとびやすい布などは、ブルー針を使用すると目とびを防ぐのに効果があります。

※ごくうすい布は、下に紙をしいて縫ってください。

※細くなめらかな糸を使用する場合は、スライドスイッチを「ゆっくり」にしてください。

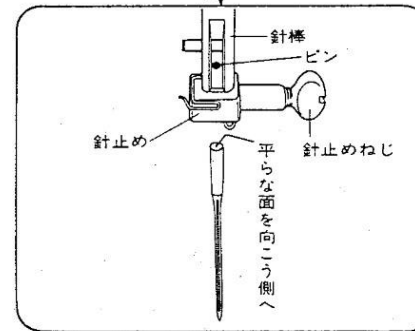
●針のはずし方、つけ方



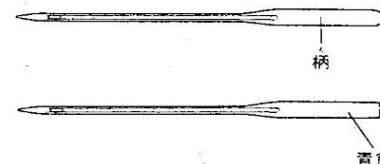
①針止めねじを手前にまわしてゆるめ、針をはずす。

②針の柄の平らな面を向こう側に向けて、針止めにさしこむ。

③奥いっぱいピンにあたるまで入れ、針止めねじをかたくしめる。



《針の選び方》



■針の太さを示す番号は柄に表示してあり、数字が大きくなれば太くなる。

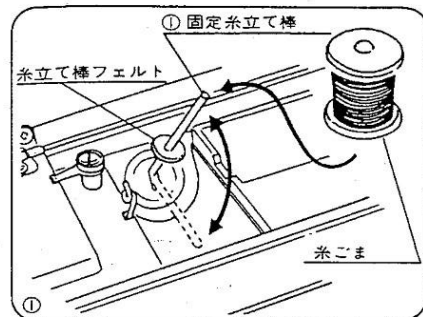
■ブルー針は柄の部分が青色をしている。

※全体がまがってしまったものや、針先がつぶれたりまがったりしたものは、使用しないでください。

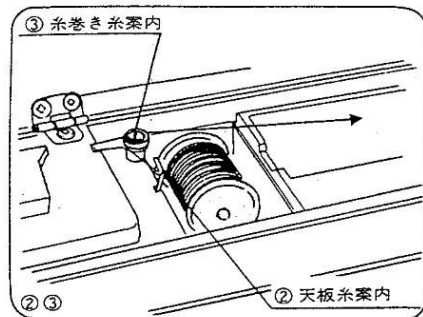
●下糸の巻き方

天板を開き、糸立て棒に糸ごまをさし込んで糸を巻きますが、固定糸立て棒と補助糸立て棒のどちらでも使用できます。

★固定糸立て棒

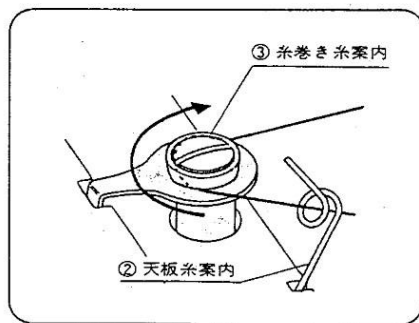


①糸立て棒を軽くおし、糸立て棒フェルトと糸ごまを入れる。

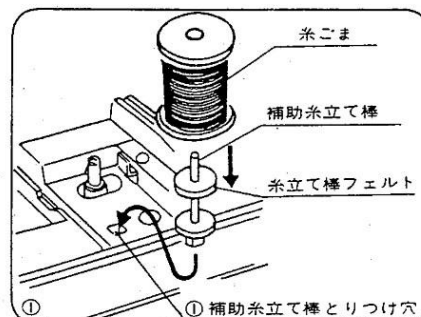


②天板糸案内に糸を掛ける。

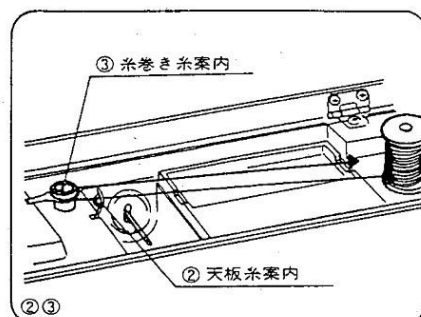
③糸巻き糸案内に糸を掛ける。



★補助糸立て棒

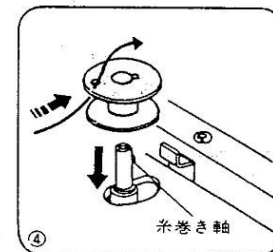


①補助糸立て棒を取りつけ穴にさし込んで、糸立て棒フェルトと糸ごまを入れる。

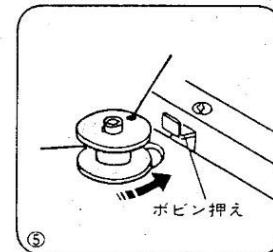


②天板糸案内に糸を掛ける。

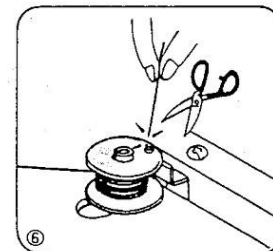
③糸巻き糸案内に糸を掛ける。



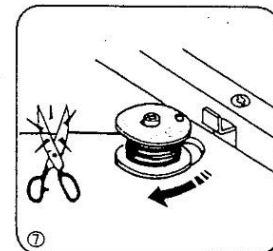
④糸の先をボビンのつばの穴に内側から通す。



⑤ボビンを糸巻き軸にさしこんで、ボビン押えの方に押す。



⑥糸の端を指でつまんだままコントローラーを踏む。ボビンに糸が3重くらい巻きついたら、穴のきわで糸を切る。

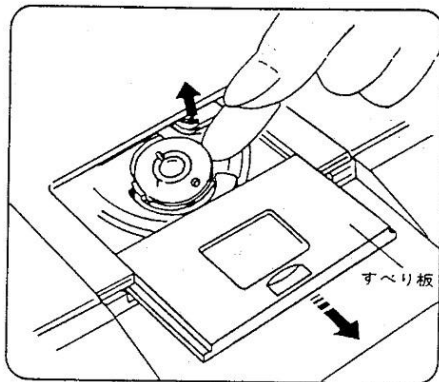


⑦巻き終わったら、ボビンは自動的に止まる。ボビンを戻して、糸を切る。

※糸巻き軸の移動は必ず、マシンを止めてから行なってください。

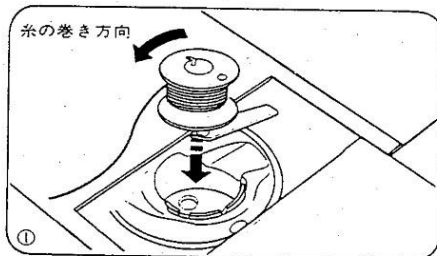
※②～③は、糸ごまを押えて糸を掛けてください。

●ボビンの出し方、入れ方



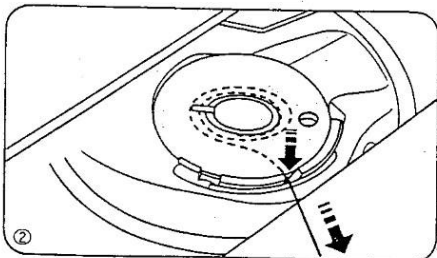
《ボビンの出し方》

すべり板を静かに止まる場所まであげ、ボビンを取り出す。

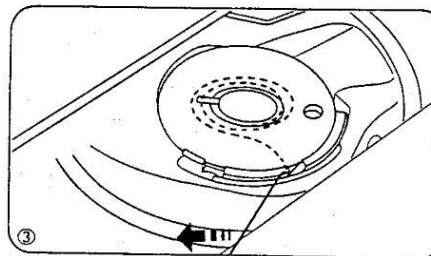


《ボビンの入れ方》

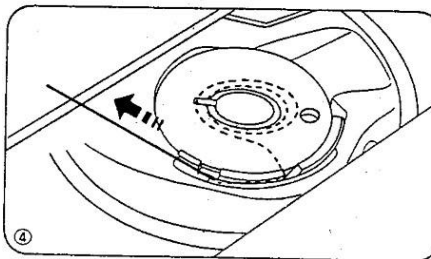
①糸の端を矢印の方向にしてボビンを入れる。



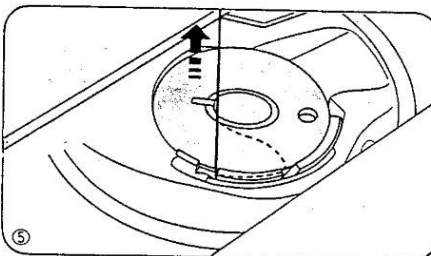
②糸の端を左指で引きながら、糸を右指先で案内し、内がまの手前のみぞに掛ける。



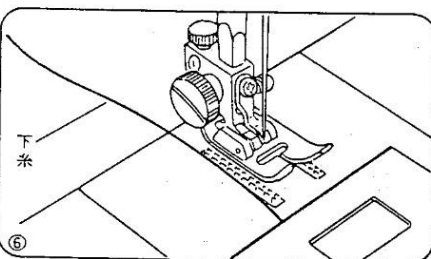
③糸を左へ引くと、みぞの外側とばねの間に糸が入る。



④ボビンがまわるまで、糸を向こう側に引くと、左側のみぞのところへ出る。

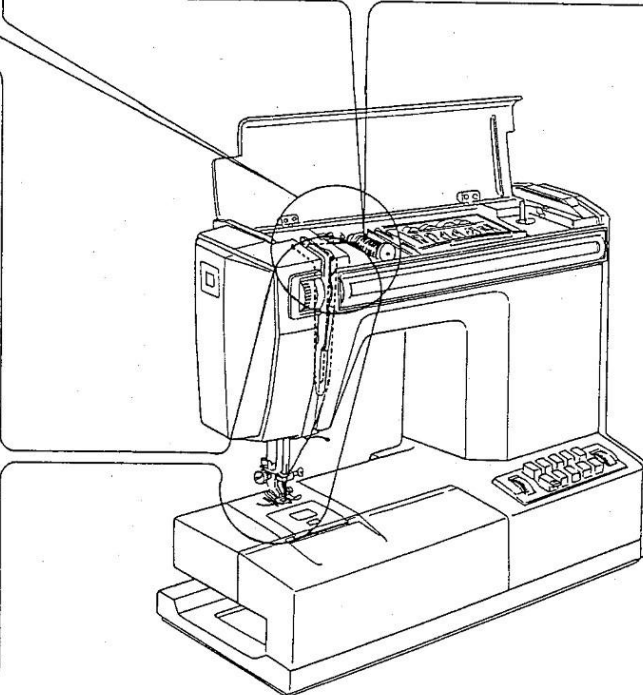
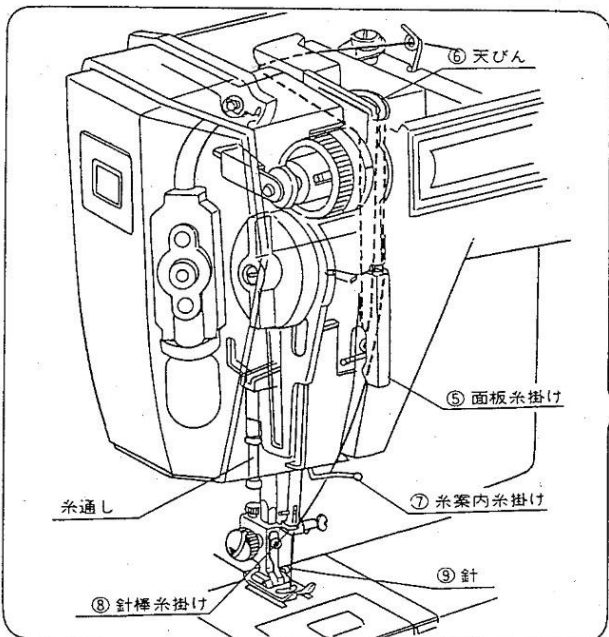
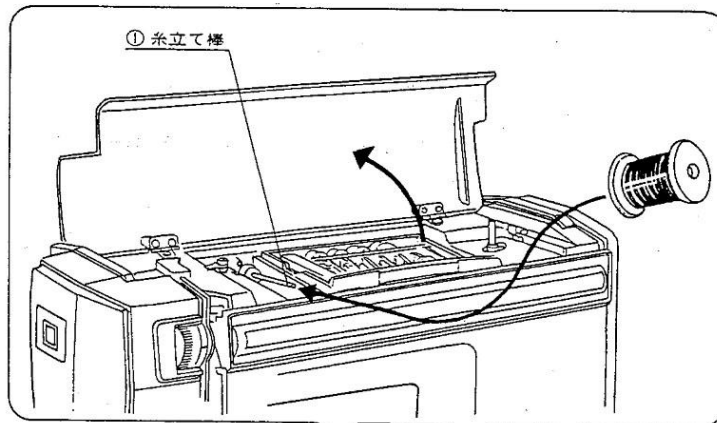
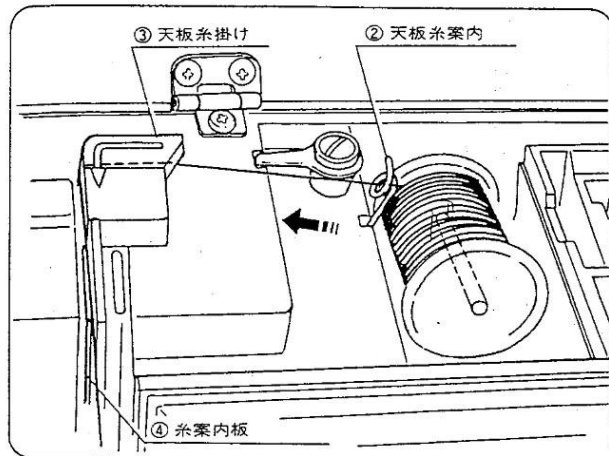


⑤糸を左側のみぞに掛けるように向こう側に出す。



⑥糸を15cmほど引き出し、すべり板をしめる。

●上糸の掛け方



押えをあげ、天びんが最上部にあるのを確かめて、糸ごまを押えながら正しく糸を掛けてください。

①天板をひらき、糸立て棒を軽くおこして糸ごまを入れ、糸を引き出す。

②天板糸案内に掛ける。

③天板糸掛けに掛ける。

④糸案内板のところで下におろす。

※糸は糸案内板の左右どちら側を通してまかいません。

⑤面板糸掛けに左から下にまわして掛け、上に引きあげる。

⑥天びんへは、左から後へまわして右へ出し、手前に引く。

⑦糸案内糸掛けに、右から掛ける。

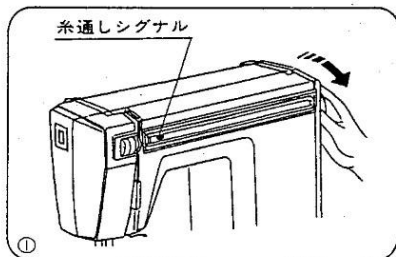
⑧針棒糸掛けに、左から掛ける。

⑨糸通しを使って、針に糸を通す。
(通し方は14ページ参照)

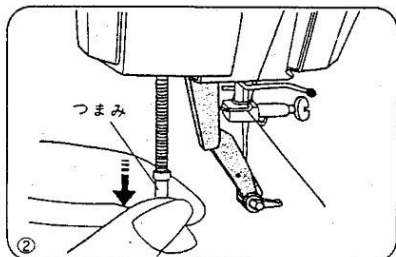
※糸通しを使わないときは、針の手前から向こう側に、手で糸を通してください。

※糸ごまの下に、付属品の糸立て棒フエルトをしいてください。

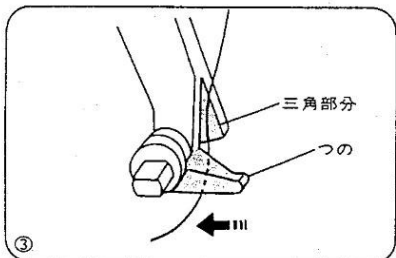
●糸通しの使い方



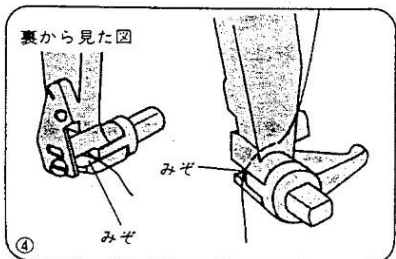
①上糸を15cmほど引き出し、押えをおろし、糸通しシグナルがオレンジ色に輝くまで、はずみ車を手前にまわす。



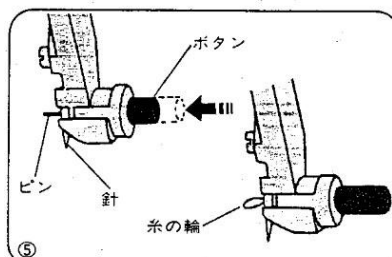
②つまみを、止まるまでいっぱい引きさげる。



③糸を、つのの向こう側に掛け、左にすべらせて、三角部分の手前を通す。

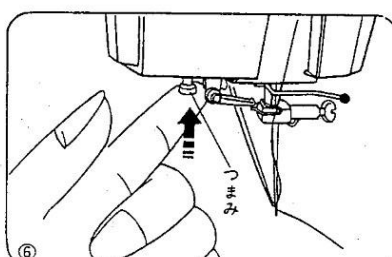


④糸を、左手前に引きながら、裏側のみぞに入れて、糸端を手前にたらす。

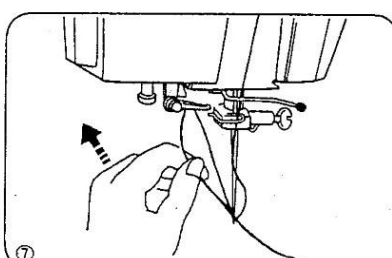


⑤ボタンを静かにいっぱいまで押して、指をゆっくりはなすと、糸の輪ができる。

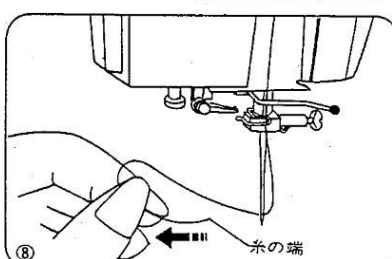
※ピンが針にあたって、うまく針穴に入っていないときには、無理にボタンを押さないでつまみを今一度引きさげ正しくセットしてください。



⑥つまみを静かに押しあげ、輪を引きあげる。



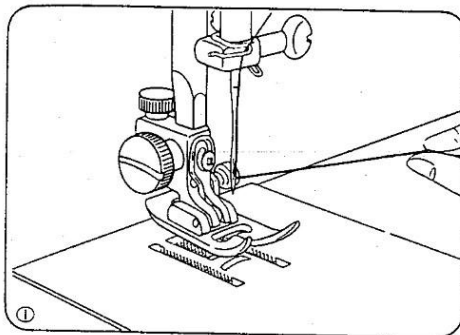
⑦糸の輪を指でつまみ、上方に引きあげるようにして、はずす。



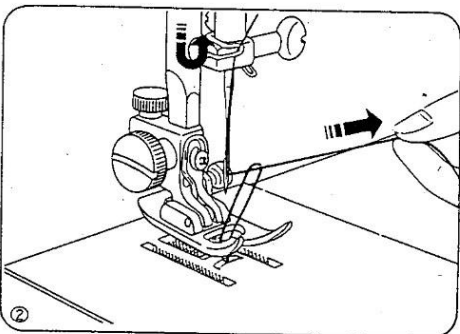
⑧糸の端を針穴から引き出す。

※針は、11番、14番、16番と付属品のブルー針、糸は、50番、60番、80番、100番をお使いください。

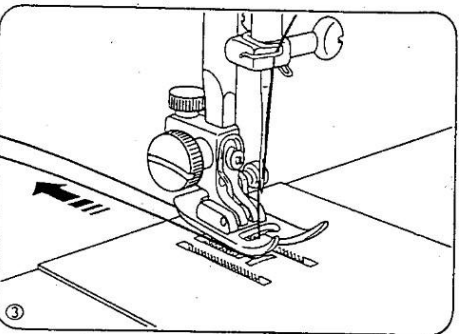
●下糸の引きあげ方



- ①左手で上糸の端をつまんで、
ややゆるめて持つ。



- ②右手ではずみ車を手前にまわし、針をいったんさげて、あげる。
天びんが最上部にきたら、上糸を軽く引くと、下糸が「輪」になって出てくる。

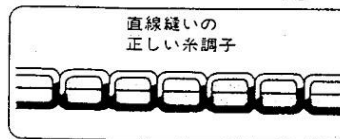


- ③出てきた下糸と上糸を、押えの下から向こう側へ、15cmほど引き出してそろえておく。

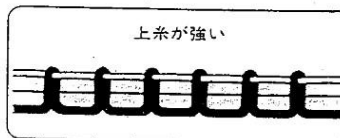
●糸調子の出し方

上糸調子は、原則として糸調子ダイヤルで、上糸調子を強くしたり、弱くしたりして調節します。

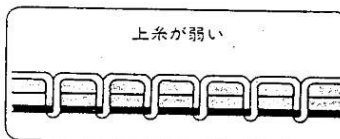
★上糸調子の出し方



直線縫いの正しい糸調子



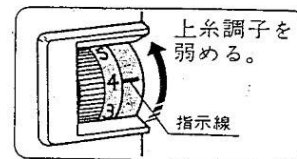
上糸が強い



上糸が弱い

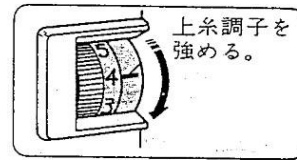
上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわる。

布の上に下糸が出る。



上糸調子を弱める。
指示線

布の下に上糸が出る。

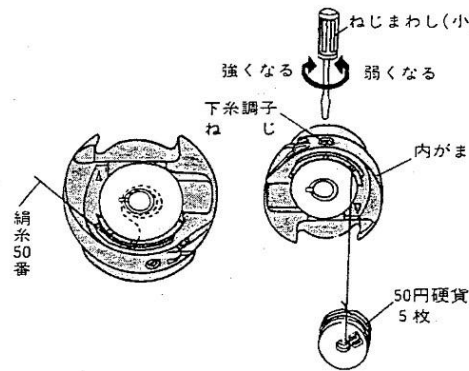


上糸調子を強める。

※上糸調子は、各縫いのセットのし方に、その目安を示してあります。

★下糸調子の出し方

下糸調子は、一般の縫い条件に適するよう工場ですく調整されています。
下糸調子を変えたい場合にはつぎのようにして調整します。



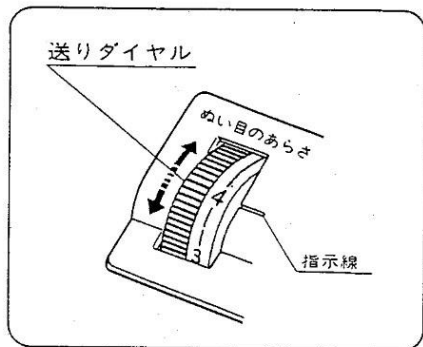
- ①針板とボビンをはずして、内がまをとり出す。(とり出し方は42ページ参照)

- ②下糸調子ねじを右にまわすと強くなり、左にまわすと弱くなる。

- ③下糸調子を標準に戻すときは、50番の絹糸を使って50円硬貨5枚を結ぶ(または、10円硬貨4枚を封筒に入れて結ぶ)。下糸調子ねじを軽くしめてから、硬貨がゆっくりさがりはじめるところまでゆるめる。

※内がまと外がまのとりつけ方は、42ページを参照してください。

●送りダイヤルの使い方

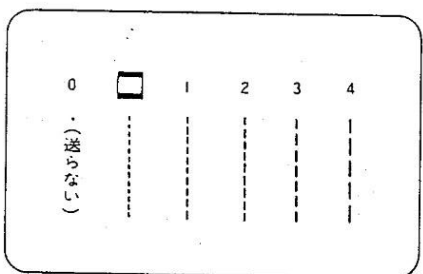


■送りダイヤルをまわし、マークを指示線に合わせる。

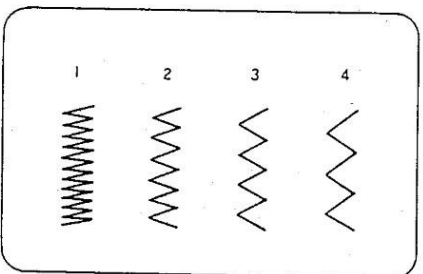
■選んだマークの色は、シグナルパネル上に点灯するシグナルの色に一致する。

■送りダイヤルのセットのし方は、つぎの通りです。

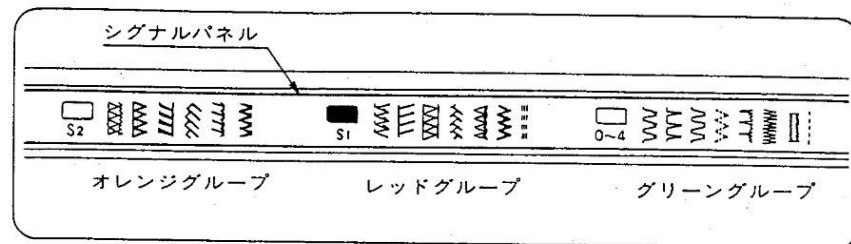
オレンジグループ.....S₂
レッドグループ.....S₁
グリーングループ.....0～4



■直線縫いにして、送りダイヤルをマーク0と4の間でまわすと、縫い目のあらしが左図のようにわかる。



■ジグザグ縫いにして、送りダイヤルマーク1と4の間でまわすと、縫い目のあらしが左図のようにかわる。



マーク

S₂

■マーク S₂ に合わせると、オレンジシグナルが点灯する。

S₁

■マーク S₁ に合わせると、レッドシグナルが点灯する。

4

3

■マーク 0～4 に合わせると、グリーンシグナルが点灯する。

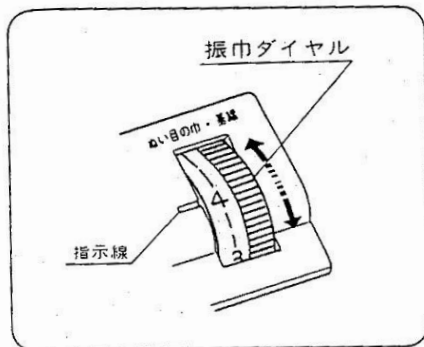
2

1

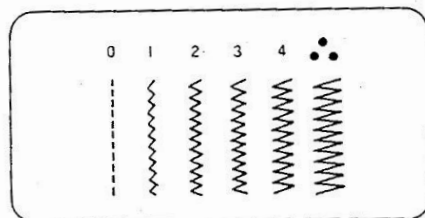
0

■ボタン穴かがりの縫い目のあらしを選ぶ目安を示す。

● 振巾ダイヤルの使い方



■ 送りダイヤルを「1」に合わせ、模様選択ボタン1を押し、振巾ダイヤルを0～●の間でまわすと、縫い目の巾が下図のようになります。



■ 振巾ダイヤルをまわし、マークを指示線に合わせる。

※ 振巾ダイヤルをまわすときは、針を布からあげてください。

マーク

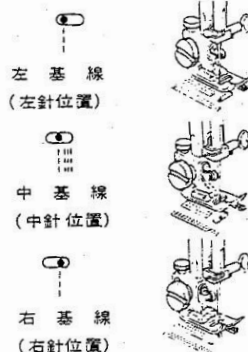
■ ボタン穴かがりの止め縫いの場合……………◎

※ 止め縫いをする間だけ、ダイヤルを手で押さえます。

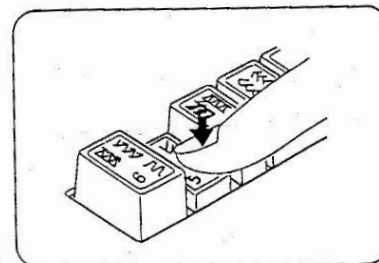
■ 縫い目の巾をかえる場合……………0～●

■ 自動模様で縫い目の巾をかえる場合……………2～●

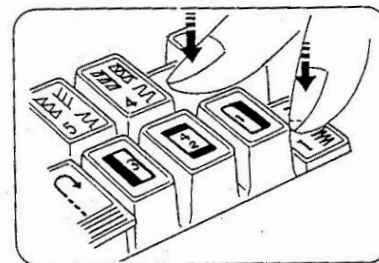
■ 直線縫いの針位置(基線)は、マークの位置で下図のようになります。



● 模様選択ボタンの使い方



■ ボタンを押して、縫い目を選ぶ。とり消すときは、他のボタンを軽く押す。



■ 合成模様を選ぶときは、ボタンを2つ一緒に押してセットする。

※ 組み合わせは、34ページを参照してください。

※ ボタンは、振巾ダイヤルをセットしてから押してください。

※ ボタンを押すときは、針を布からあげてください。

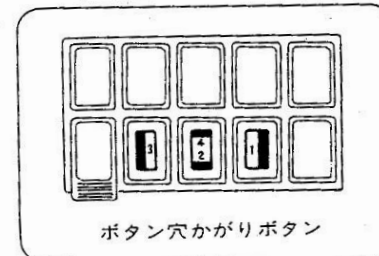
※ 縫い目のグループの色と合ったボタンを選んでください。

※ 縫い目のグループをかえるときは、送りダイヤルをまわしてください。

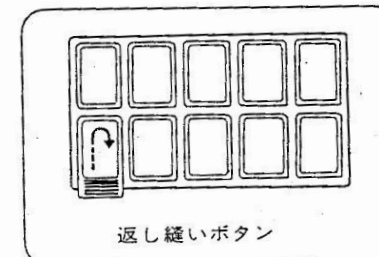
■ ボタン穴かがりのときは、ボタンを1→2→3→4の順に押す。

※ ボタン穴かがりのやり方は、24～26ページを参照してください。

■ 返し縫いボタンを押している間は、返し縫いをする。



ボタン穴かがりボタン

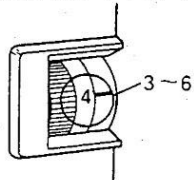


返し縫いボタン

●直線縫い

《セットのし方》

糸調子ダイヤル



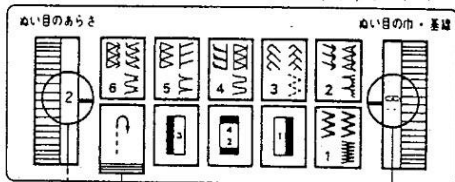
押え



A・基本押え

送りダイヤル

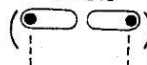
振巾ダイヤル



返し縫いボタン

1.5~4

または

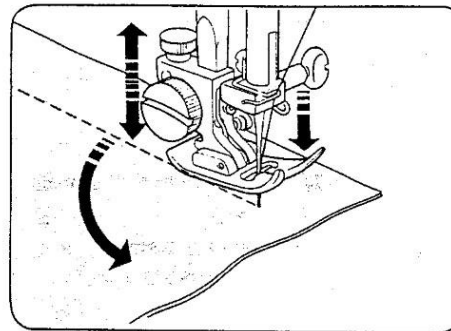


※縫い目のグループはグリーンですが、模様選択ボタンは押しません。

《縫いはじめ》

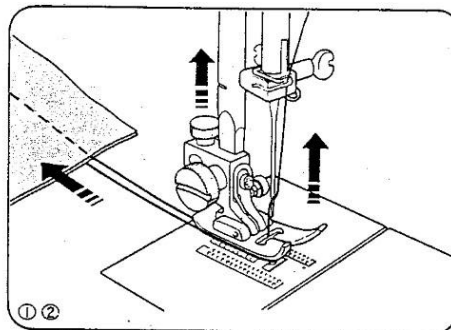
- ①上糸・下糸を押えの向こう側へ、15cmほど引き出し、糸のたるみをなくす。
- ②上糸・下糸を左手で押さえて、はずみ車を手前にまわし、縫いはじめの位置に針をさす。
- ③押えをおろし、コントローラーを軽く踏み、ゆっくり縫いはじめる。

※縫いはじめの部分は、返し縫いボタンを押して、数針縫ってください。



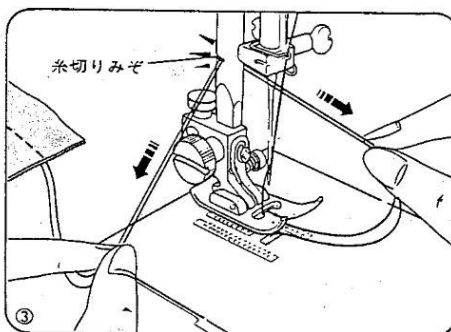
《縫い方向をかえるとき》

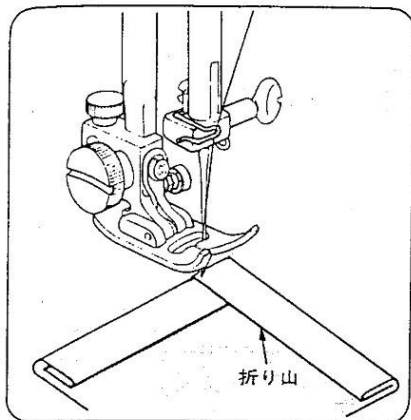
- ①針を布にさしたままミシンを止め、押えをあげる。
- ②針を軸にして布をまわす。
- ③押えをおろして縫う。



《縫いおわり》

- ①返し縫いボタンを押して、数針縫う。
- ②針と押えをあげて、布を向こう側に引き出す。
- ③押え棒の糸切りみぞで、糸を切る。

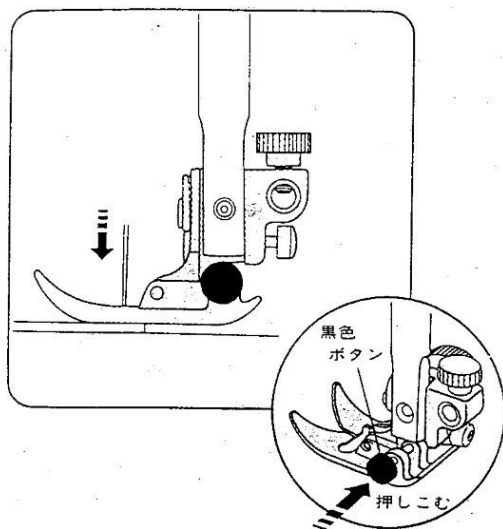




《かどの縫いはじめ》

折り山に合わせて、基線（針位置）をかえる。

※基線（針位置）のかえ方は、17ページにあります。



《厚手の布の縫いはじめ》

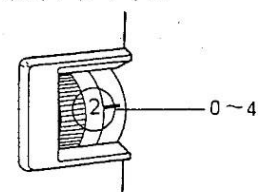
- ①縫いはじめの位置に針をさし、基本押えの黒色ボタンを、右手で押しあげるようにして、押しこむ。
- ②ボタンを押したまま、左手で押えをおろす。
- ③ボタンから手をはなし、縫いはじめる。

※縫い目のあさは、あらめしてください。

●ジグザグ縫い

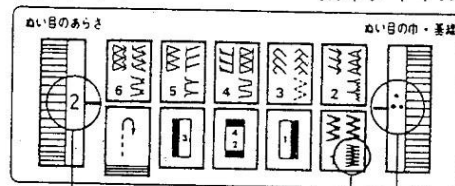
《セットのし方》

糸調子ダイヤル



送りダイヤル

振巾ダイヤル



0.5~4

1~3

押え



A 基本押え

模様選択ボタン



※ボタンを押すときは、針を布からあげてください。

※模様選択ボタンは、振巾ダイヤルをセットしてから押してください。

●裁ち目かがり

裁ち目かがりは、布端のほつれ止めとして、特に肩・袖下・脇・見返し・股上・股下などの縫いしろのしまつに使います。ほつれやすい、伸縮性のある素材の縫い合わせや、布の返り防止など、素材の特性や用途にふさわしい縫い目が選べます。実際に縫うものと同じ布を使って試し縫いをしてみて、適切なかかりをお選びください。

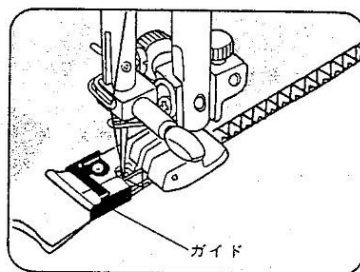
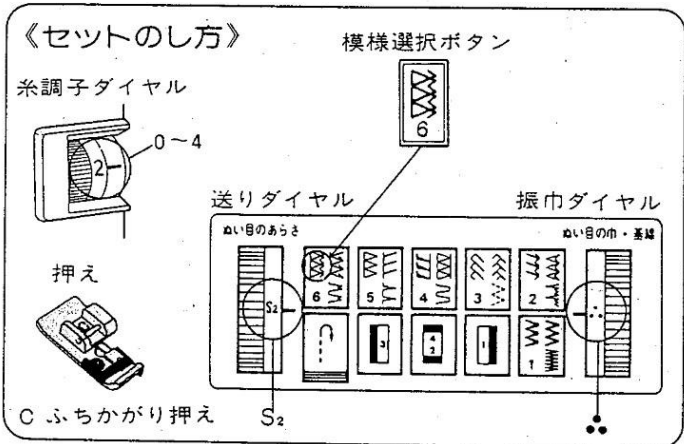
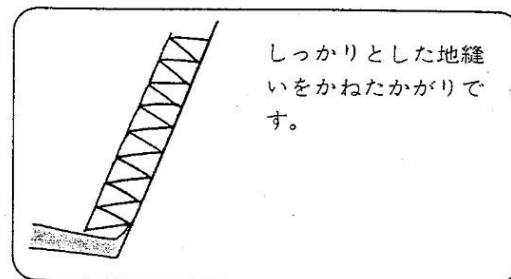
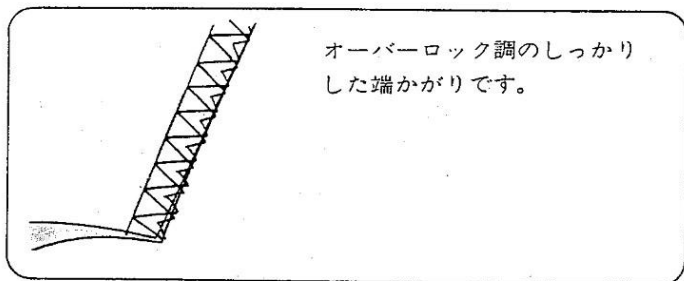
※伸縮性のある布は、押え圧ダイヤルの数字「1」、または「2」にし、ブルー針を使用してください。縫い終わったら、押え圧ダイヤルを「3」に戻しておいてください。

※スライドスイッチを「ゆっくり」にしてください。

※絹糸は使用しないでください。

★かがり縫いステッチ

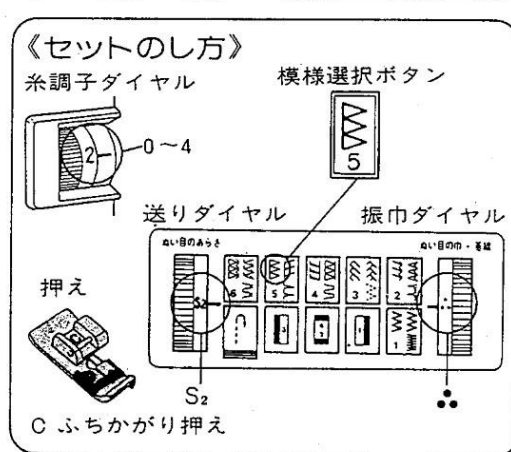
かがりと地縫いが同時にできるので、ほつれやすい布や、縫いしろを割らなくてもいいものの縫い合わせに適しています。



《縫い方》

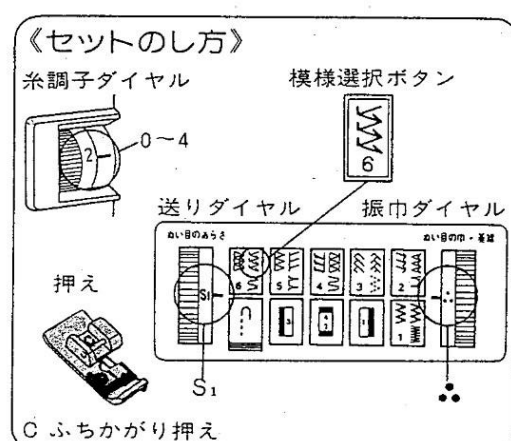
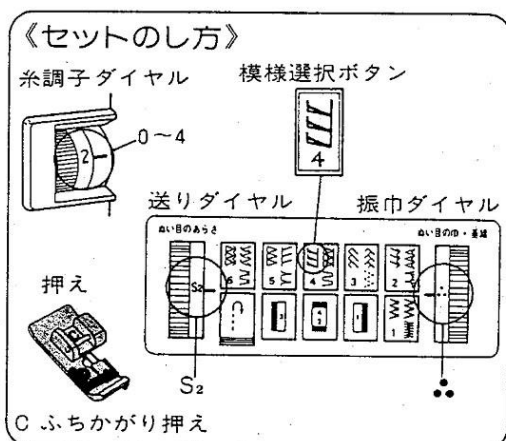
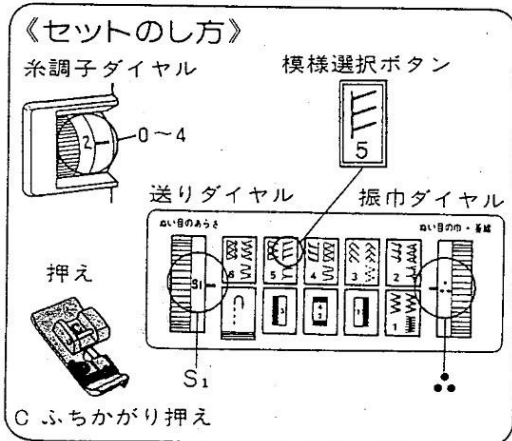
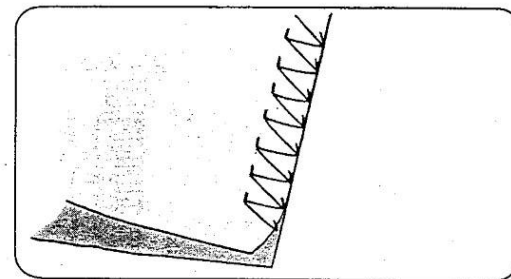
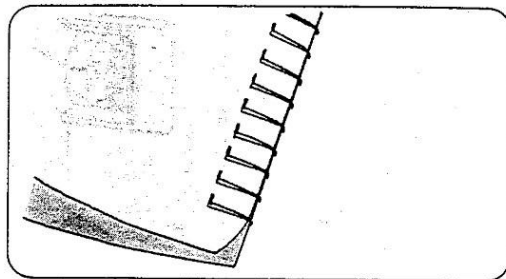
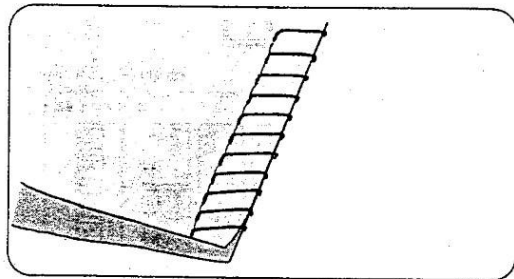
布端をふちかがり押えのガイドにあてて縫う。

※縫い方は、どのかがり縫いステッチでも同じです。



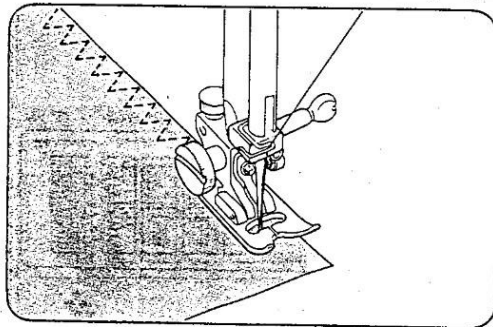
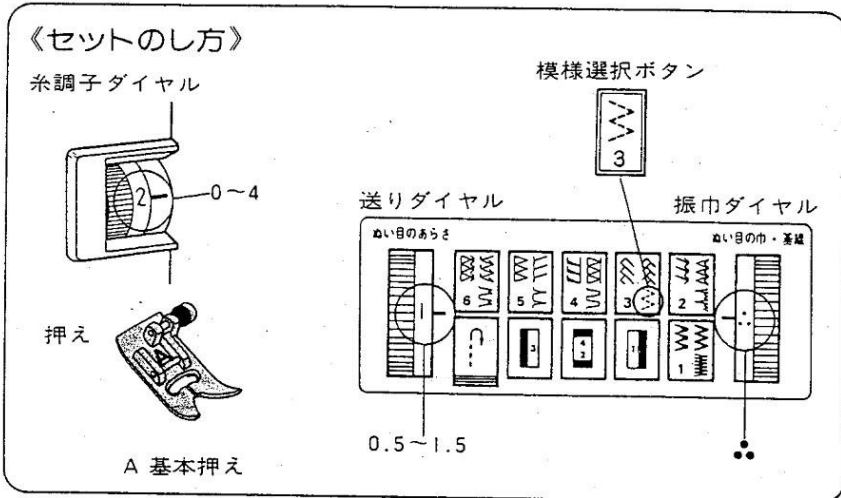
※裁ち目かがりにも使用できます。

■ かがり縫いステッチとして広く利用できる縫い目につぎのがあります。



★トリコット縫い裁ち目かがり

ほつれやすい布や、伸縮性のある布のほつれ止め、布端の返り防止に利用します。

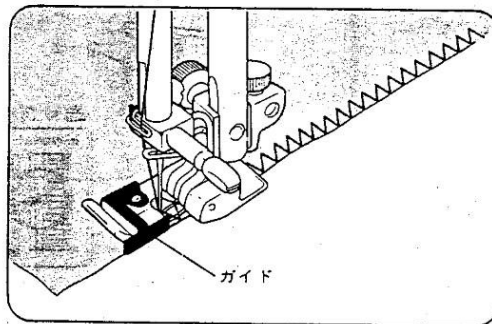
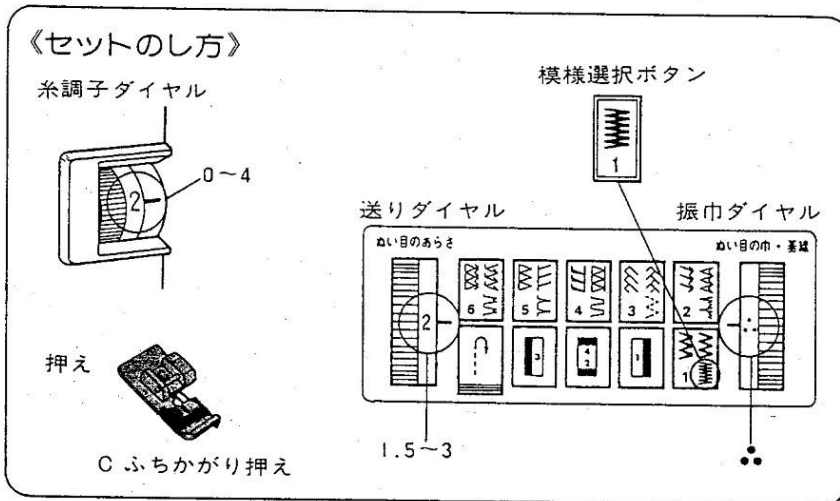


《縫い方》

布端を、押えの右端より、やや内側にし、織り糸を1~2本残すように縫う。

★ジグザグ縫い裁ち目かがり

裁ち目のほつれ止めとして広く利用します。



《縫い方》

布端をふちかがり押えのガイドにあてて縫う。

●ストレッチ(伸縮)縫い

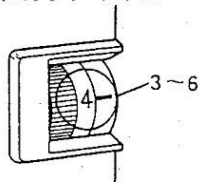
ニット（ジャージー、トリコット）などの伸縮性のある布に使います。

★ジグザグ伸縮縫い

布が伸びても、糸が切れにくい、伸縮性のある縫い目です。
また、直線状なので、割りはぎなどの地縫いに利用できます。

《セットの仕方》

糸調子ダイヤル



押え



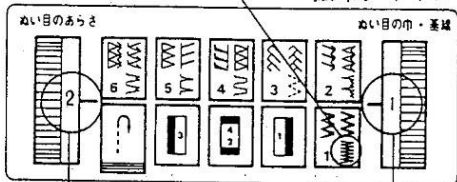
A 基本押え

模様選択ボタン



送りダイヤル

振巾ダイヤル



1~2

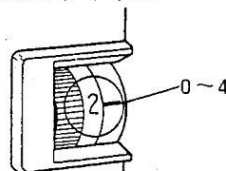
1~1.5

★フェザーステッチ

伸縮性のある、しっかりした縫い合わせができます。

《セットの仕方》

糸調子ダイヤル



押え



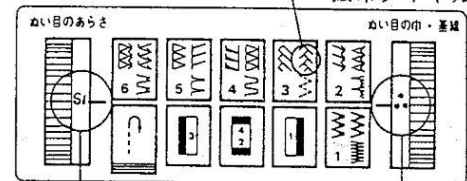
A 基本押え

模様選択ボタン



送りダイヤル

振巾ダイヤル

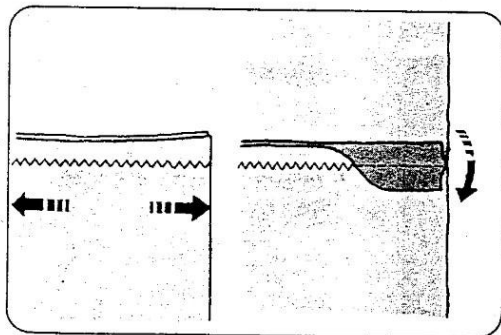


S1

3

《縫い方》

直線縫いと同じ。

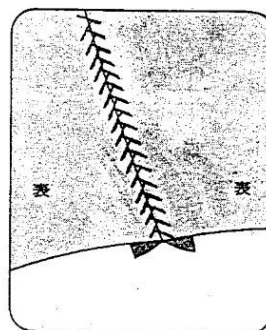


《準備》

布を中表に合わせて、地縫いをし、縫いしろを割る。

《縫い方》

布の表から地縫い線を中心にして縫う。



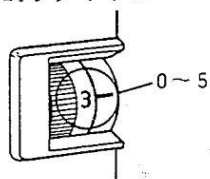
※伸縮性のある布は、押え圧ダイヤルの数字「1」、または「2」にし、ブルー針を使用してください。縫い終わったら、

押え圧ダイヤルを「3」に戻しておいてください。

●ボタン穴かがり(ボタンホール)

《セットのし方》

糸調子ダイヤル



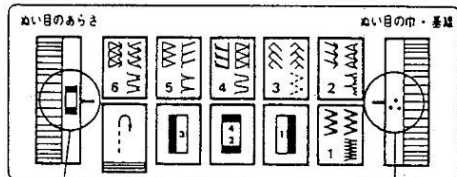
押え



B ボタンホール押え

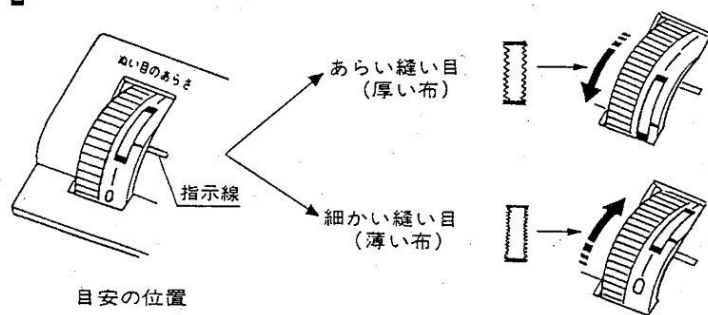
送りダイヤル

振巾ダイヤル



ボタン穴かがりボタン

印の範囲で調節する。



※縫うものと同じ布で、試し縫いをして確かめてから、縫ってください。

※伸縮性のある厚手の布や、やわらかい厚手の布(ジャージー・ツイードなど)は、押え圧ダイヤルを「2」にすれば、きれいに仕上がります。

※伸縮性のある布には、布の裏に、伸びにくい芯地をはってください。

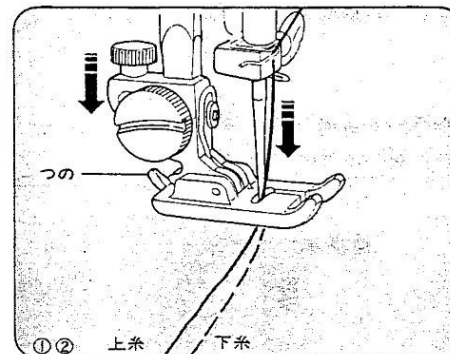
24

www.golldookht.com تدوین شده توسط گلدوخت

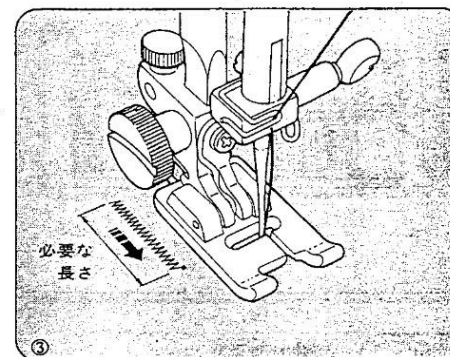
《縫い方》

①模様選択ボタン を押す。

②上糸と下糸を左横へ15cmほど引き出して、縫いはじめの位置に針をさし、押えをおろす。

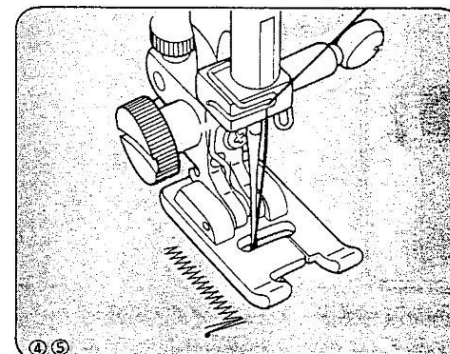


③必要な長さまで縫ったらミシンを止め、針をあげる。



④模様選択ボタン を押す。

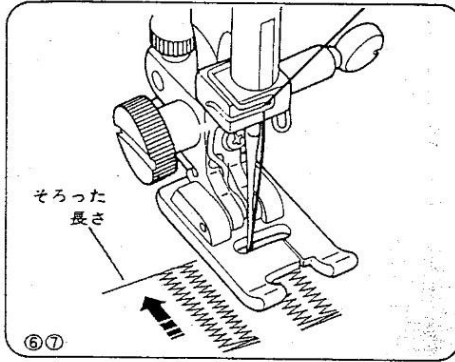
⑤かんぬきを5針ぐらい縫い、針をあげる。



@ #golldookht

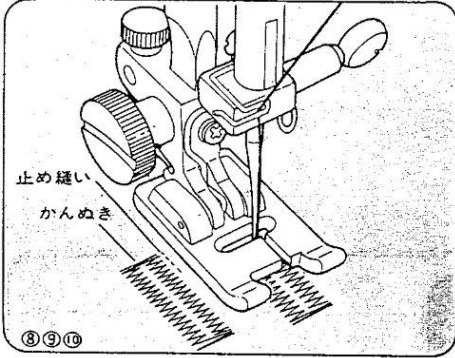
@golldookht

●芯入りボタン穴かがり



⑥模様選択ボタン **1** を押す。

⑦右側と同じ長さまで縫い、針をあげる。



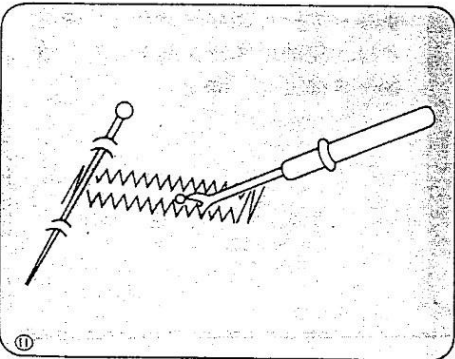
⑧模様選択ボタン **2** を押す。

⑨かんぬきを5針ぐらい縫い、針をあげる。

⑩振巾ダイヤルを「●●」から「●●」にかえ、その位置でダイヤルを手で押さえたまま、数針止め縫いをする。

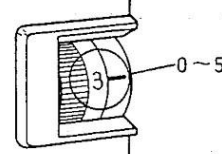
※振巾ダイヤルを「●●」から「●●」に戻します。

⑪かんぬきの内側にまち針を縫いさし、目ほどきで、かがった糸を切らないように、中央の布を切りひらく。



《セットのし方》

糸調子ダイヤル



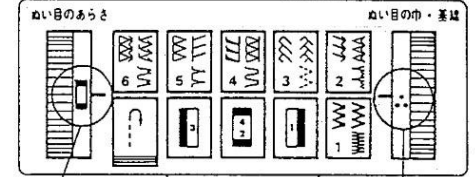
押え



B ボタンホール押え

送りダイヤル

振巾ダイヤル



ボタン穴かがりボタン

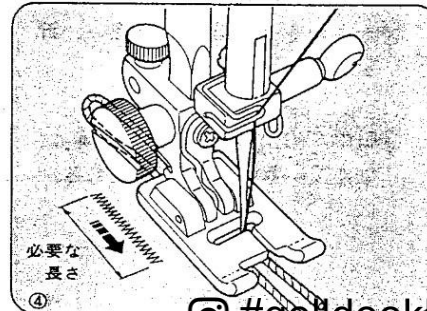
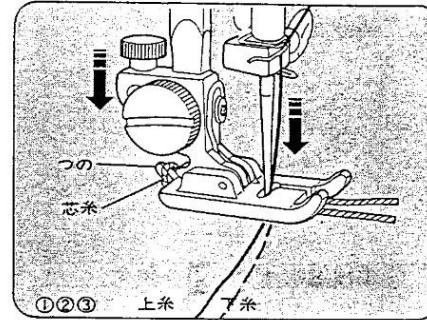
《縫い方》

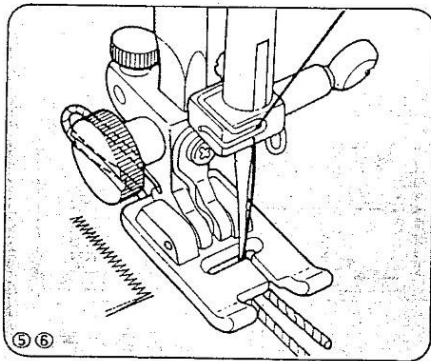
①模様選択ボタン **1** を押す。

②芯糸の輪を押えの後ろ側にある「つの」に掛け、押えの下から、手前に引き出す。

③縫いはじめの位置に針をさし、押えをおろす。

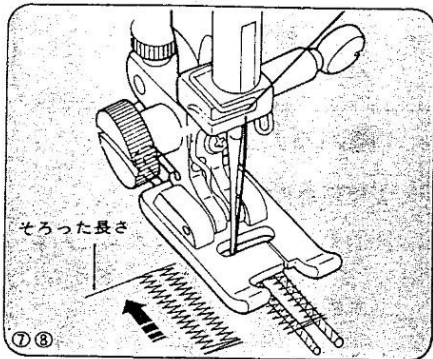
④2本の芯糸を、つのの巾に平行にして、軽く布面に押しつけながら、必要な長さだけ縫い、ミシンを止め、針をあげる。





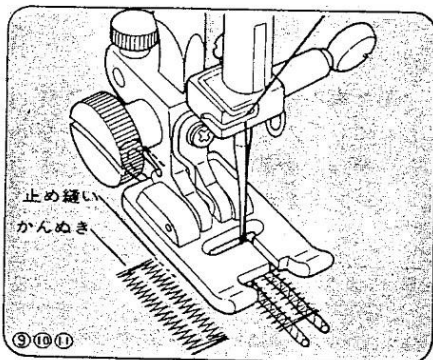
⑤模様選択ボタン ⑤を押す。

⑥押えの後ろ側に出ている芯糸の「輪」がつのに掛からないように、布面に押しつけてから、かんぬきを5針ぐらい縫い、針をあげる。



⑦ボタン ⑦を押す。

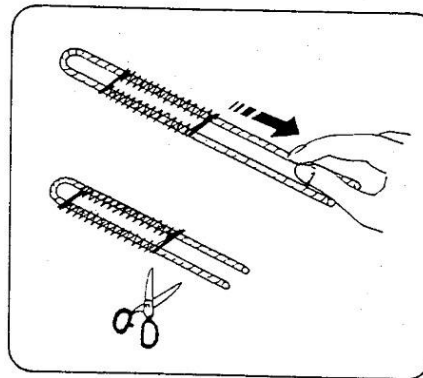
⑧右側と同じ長さまで縫い、針をあげる。



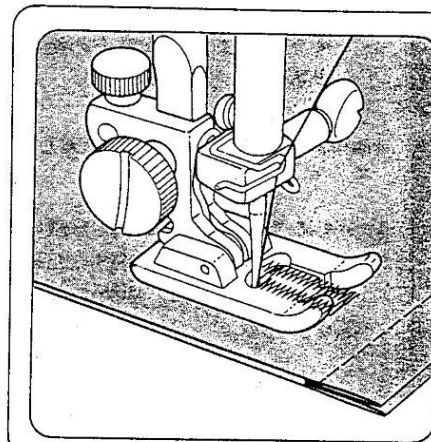
⑨模様選択ボタン ⑨を押す。

⑩かんぬきを5針ぐらい縫い、針をあげる。

⑪振りダイヤルを「●」から「●」にかえて、数針止め縫いをする。



⑫右側の芯糸を引いて、たるみをなくし、余分な芯糸を切る。

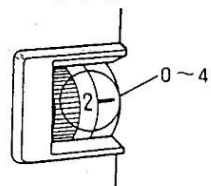


ボタン穴の位置が、縫いしろの、重なっている部分のきわになるときは、段部に交わる向きにし、段部を手前にして縫う。

●くけ縫い(まつり縫い)

《セットのし方》

糸調子ダイヤル



押え

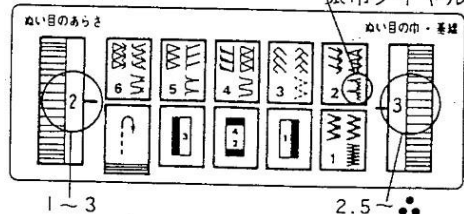


G くけ縫い押え

模様選択ボタン



送りダイヤル



振巾ダイヤル

ぬい目のあらし

ぬい目の巾・長さ

1~3

2.5~

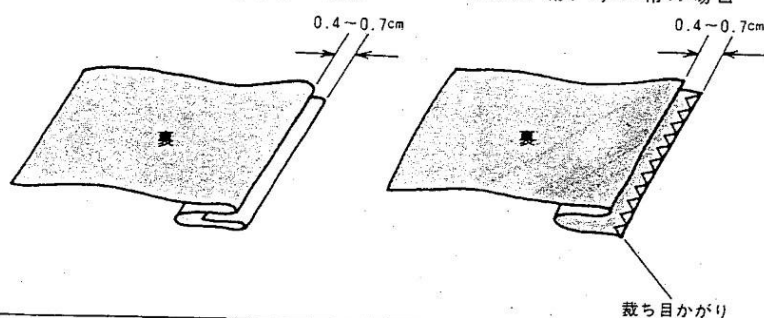
○目盛を大きくすると
(目盛3~)

○目盛を小さくすると
(目盛2.5)

《布の折り方》

うすい布、普通布の場合

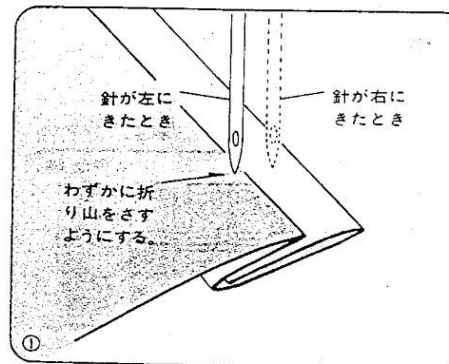
かたい布、厚い布の場合



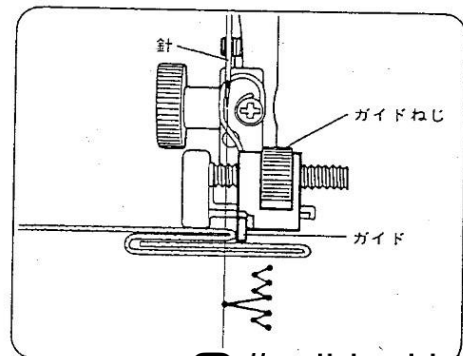
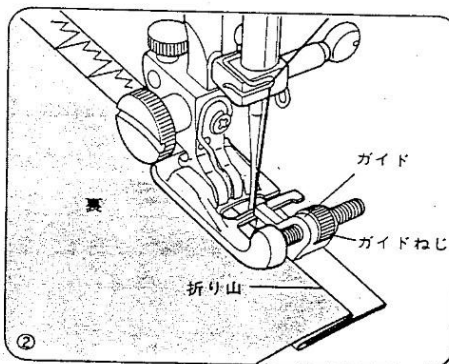
裁ち目かがり

《縫い方》

①はずみ車を手前にまわして、針が最も左にきたときに、針がわずかに折り山をさすように布を置いて、押えをおろす。



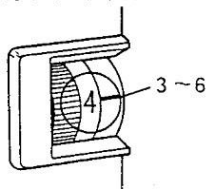
②ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針がはずれないように縫う。



●ファスナーつけ

《セットのし方》

糸調子ダイヤル

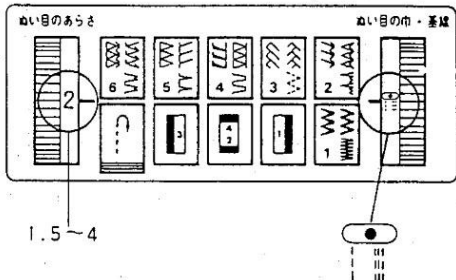


押え



E ファスナー押え

送りダイヤル



振巾ダイヤル

《押えのつけ方》

むしの左側を縫うときは、右のピンにとりつける。

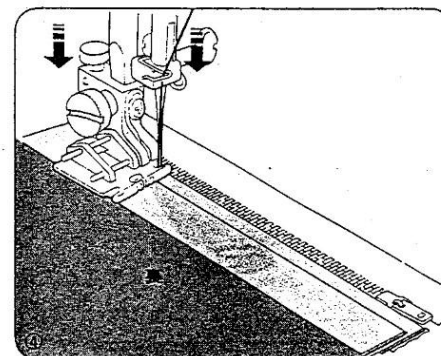
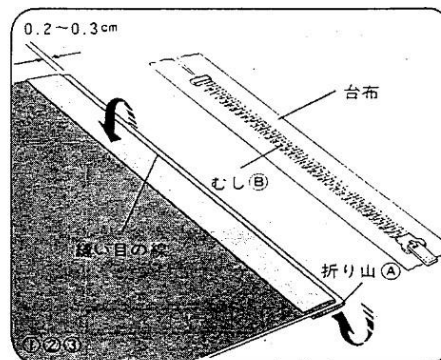
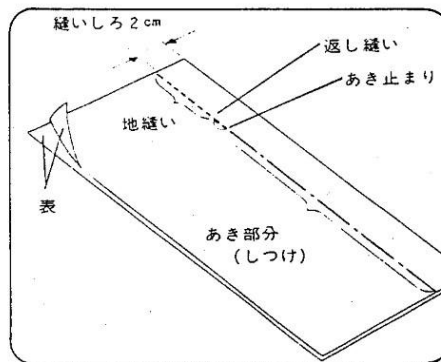
むしの右側を縫うときは、左のピンにとりつける。

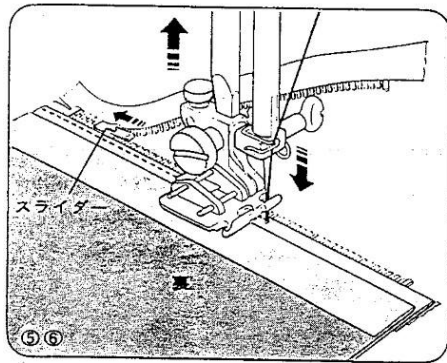
《準備》

- ① 布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをする。
- ② あき部分は、しつけをする。

《縫い方》

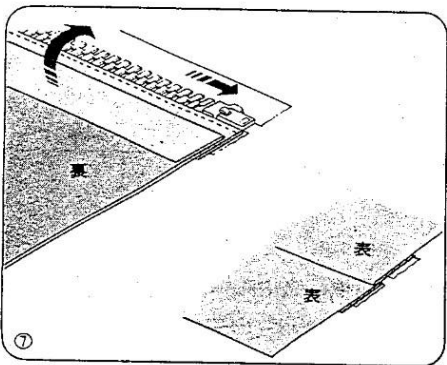
- ① 上の布の縫いしろを、縫い目の線で折り返す。
- ② 下の布の縫いしろは、縫い目の線から0.2～0.3cm出して、下に折り返す。
- ③ ファスナーのむし⑧を、折り山⑨にそわせて、布をファスナーの台布にのせる。
- ④ 押えを、右のピンにとりつけ、縫いはじめの位置に針をさし、押えをおろして縫う。



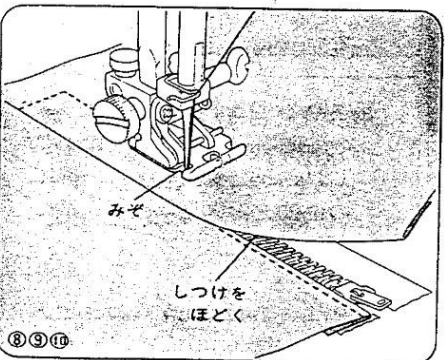


⑤押えが、スライダーにあたる手前で、ミシンを止める。

⑥はずみ車を手でまわして、針を布にさしたまま、押えをあげ、スライダーを押えの向こう側にずらし、押えをさげて、残りを縫う。



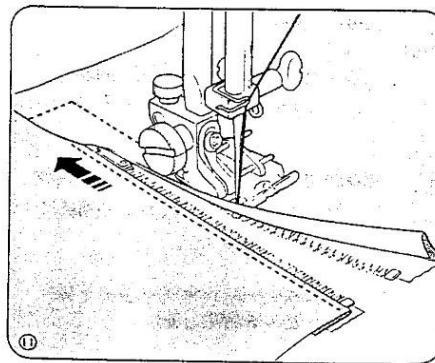
⑦スライダーをもとに戻し、布をひらいて、表にする。



⑧押えを左のピンにつけかえ、ファスナーのむしを、布の上から押えの裏のみぞにあてて縫う。

⑨押えがスライダーにあたる手前で、ミシンを止める。

⑩はずみ車を手でまわして、針を布にさし、押えをあげ、しつけをほどく。

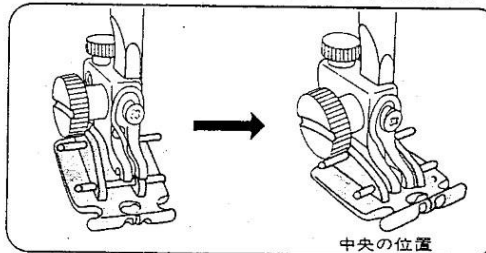


⑪スライダーを押えの向こう側にずらし、押えをおろして、残りを縫う。

※縫い方の説明は、スカート左脇あきファスナーつけの例です。

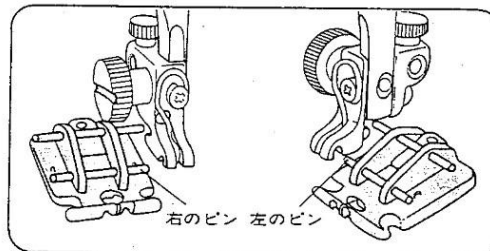
●コンシールファスナーつけ

※セットのし方は、28ページを参照してください。

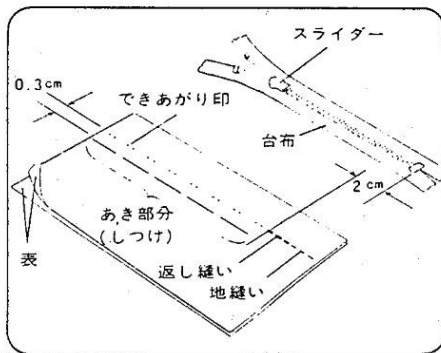


《押えのつけ方》

むしの左側と右側を縫うときは、中央の位置にとりつける。



台布の左側を、縫いしろに縫いつけるときは、右のピンに、右側のときは、左のピンにとりつける。

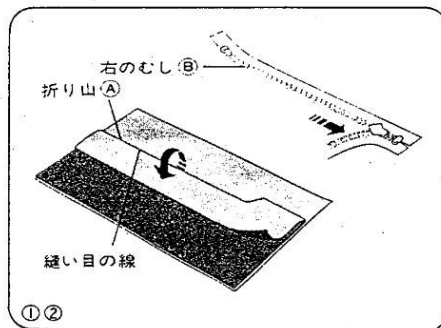


《準備》

①布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをする。

②あき部分は、地縫い線(できあがり印)から、0.3cm 内側に「しつけ」をする。

※ファスナーは、あき寸法より 2cm 長いものを用意します。



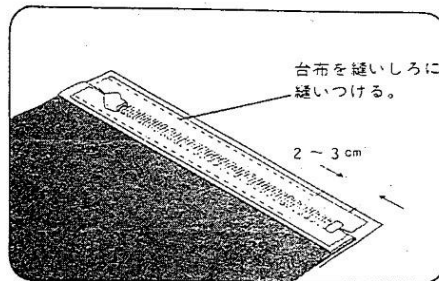
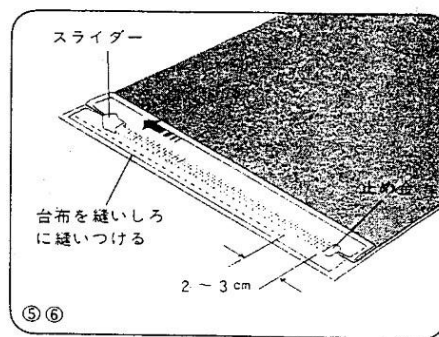
《縫い方》

①上の布の縫いしろを、縫い目の線で、身頃側へ折り返す。

②ファスナーをひらいて、右のむし⑧を、折り山①にあてておく。

③押えを、中央の位置にとりつけ、右のむしを立てて、押えの裏の左側のみぞに入れ、針がむしのきわを縫うように、押えの位置をやや右によせ、押えをおろす。

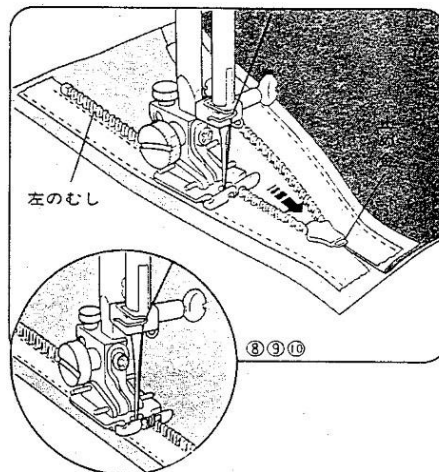
④むしをおこしながら、あき止まりまで縫う。



⑤押えをあげて、スライダーをとじる。

⑥押えを、右のピンにつけかえ、ファスナーの下身頃を、右側に折り返して、左側の台布の端を、縫いしろに止め金から 2-3 cm のところまで縫いつける。

⑦押えを、左のピンにつけかえ、スライダーの下身頃を、左側に折り返して、右側の台布の端を、縫いしろに止め金から 2-3 cm のところまで縫いつける。



⑧押えを中央の位置につけかえ、しつけをほどこし、スライダーの下身頃を、右側に折り返してスライダーを、止め金までいっぱいひらく。

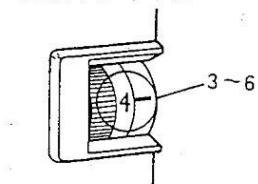
⑨左のむしをおこし、押えの裏の右側のみぞに入れ、針がむしのきわを縫うように、押えの位置をやや左によせ、押えをおろす。

⑩むしをおこしながらあき止まりまで縫う。

●三つ巻き縫い

《セットの仕方》

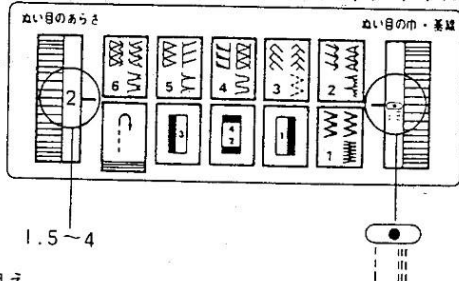
糸調子ダイヤル



D 三つ巻き押え

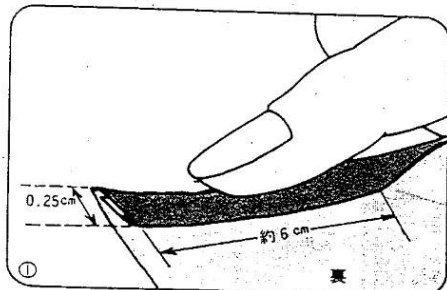
送りダイヤル

振巾ダイヤル

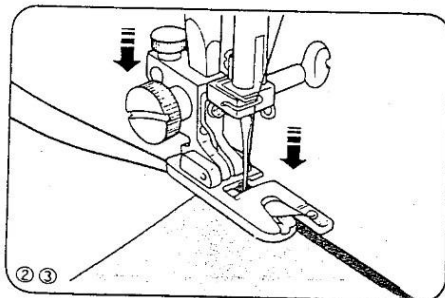


《縫い方》

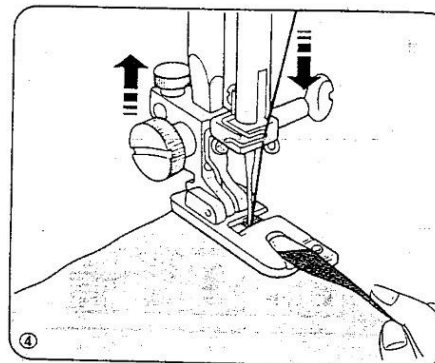
① 布端の長さ約 6 cm を、0.25 cm くらいの巾で、2 度折りまげる。



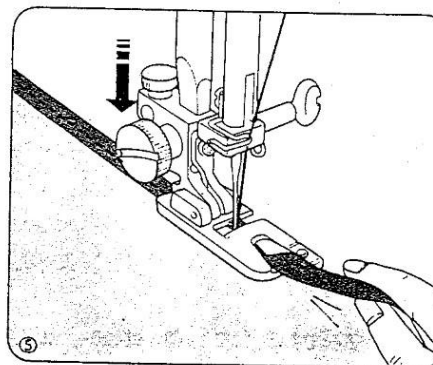
② 縫いはじめの部分に針をさし、押えをおろす。



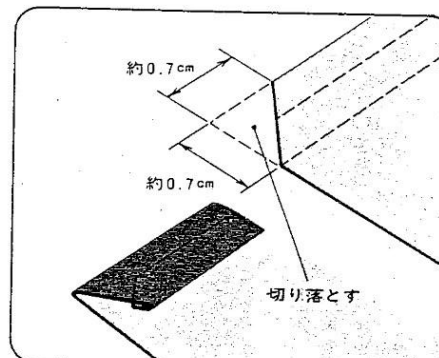
③ 上糸と下糸を、そろえて向こう側に引きながら、1 ~ 2 cm 縫う。



④ はずみ車を手でまわし、針をさし、押えをあげ、折りまげた布の部分、を、押えの渦の中に巻きこむ。



⑤ 押えをおろし、布端を立てて、やや左へ引きぎみに持ちあげながら、縫う。



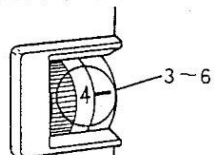
《布端のしまつの仕方》

三つ巻き縫いの重なる部分は、布端を切り落として折り合わせ、厚みをうすくする。

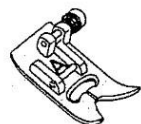
●三重縫い

《セットのし方》

糸調子ダイヤル



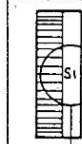
押え



A 基本押え

送りダイヤル

ぬい目のあらし



S1

振巾ダイヤル

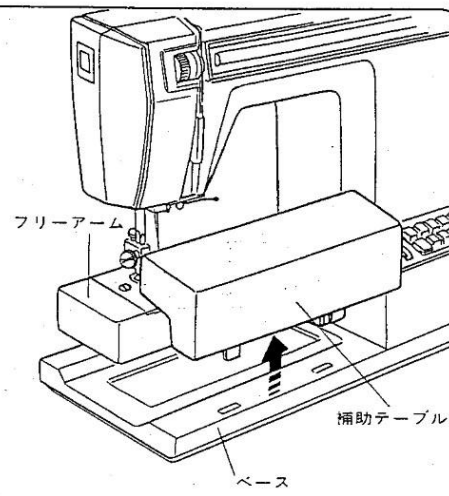
ぬい目の巾・基縫



●筒縫い

《準備》

補助テーブルをはずす。

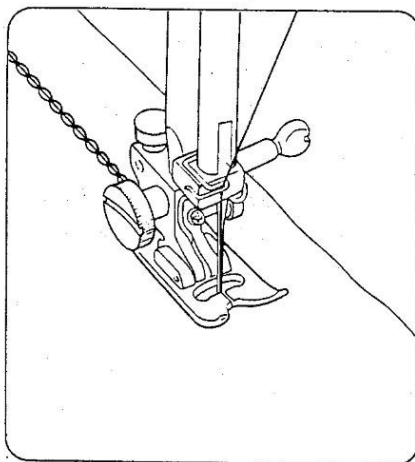


※補助テーブルのはずし方・つけ方は、5 ページにあります。

※筒縫いをするときは、フリーアームの下側やベースの上面を乾いた布でふいてください。

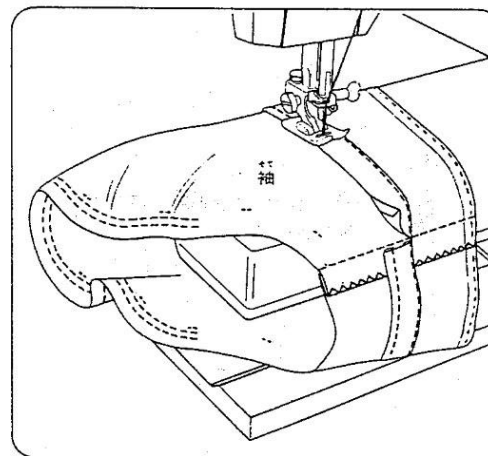
《縫い方》

布が前後するので、縫い目が、まがらないように、注意して縫う。



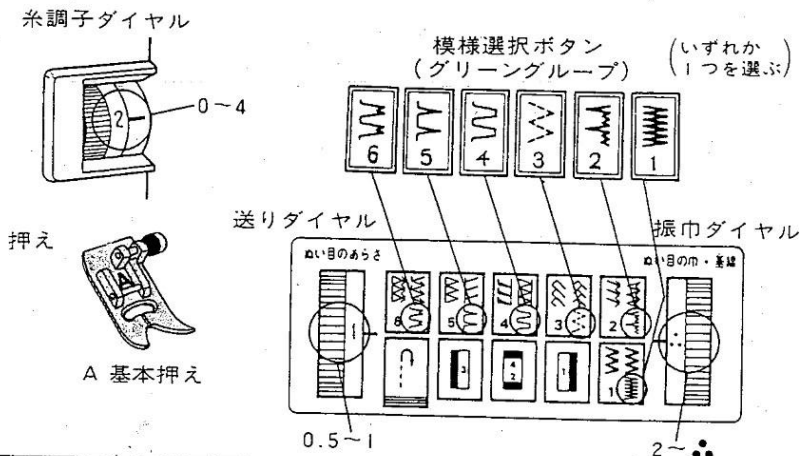
《縫い方》

フリーアームに、筒部を入れて縫う。

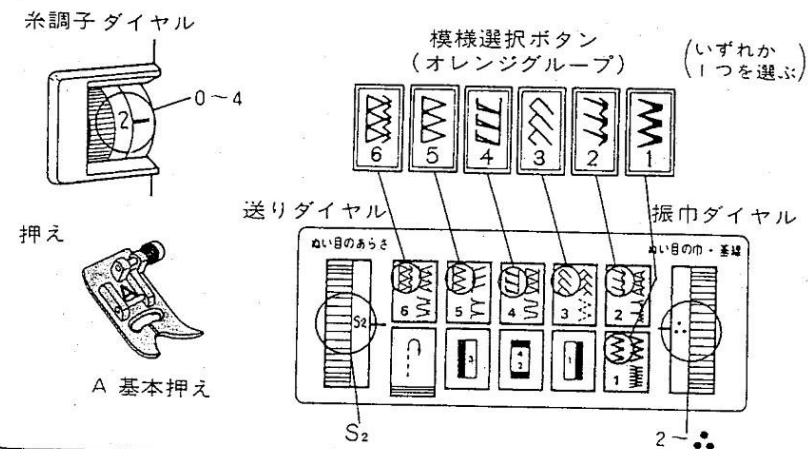


●自動模様縫い

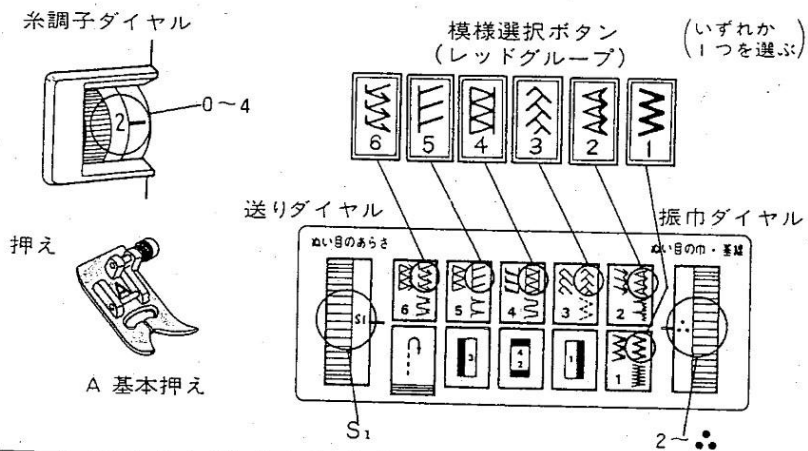
《セットのし方》 ★ジグザグ模様



《セットのし方》 ★スーパー模様 S₂

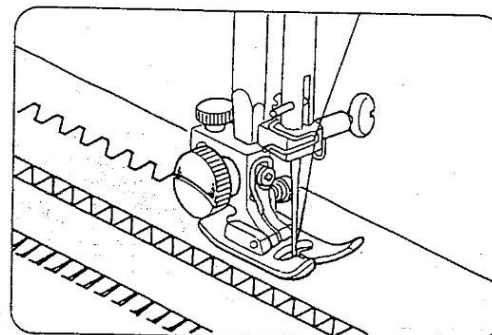


《セットのし方》 ★スーパー模様 S₁



《縫い方》

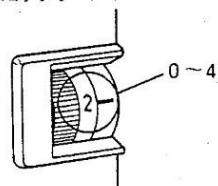
出来あがり線に合わせる模様の位置に注意して縫う。



●合成模様縫い

《セットのし方》

糸調子ダイヤル

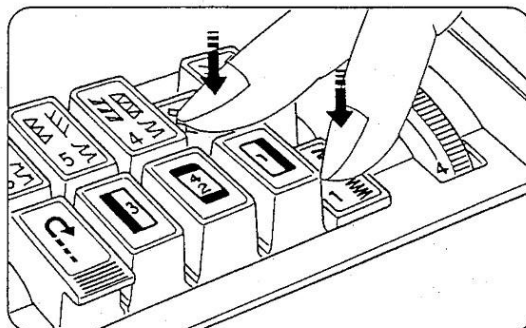


押え



A 基本押え

模様選択ボタン



振巾ダイヤルをセットしてからボタンを2つ一緒に押し、模様をセットする。

※合成模様は、同じ色のグループどうしの組み合わせで縫います。

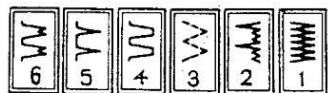
※合成模様の組み合わせ例は早見板にも表示してあります。

合成模様の組み合わせ例

模様	ボタンの組み合わせ	模様	ボタンの組み合わせ	模様	ボタンの組み合わせ
	3+1		3+1		3+1
	6+1		6+1		6+1
	3+2		3+2		3+2
	4+2		4+2		4+2
	4+3		4+3		4+3
	6+4		6+4		6+4
ぬい目のあらし	S2		S1		0.5~1

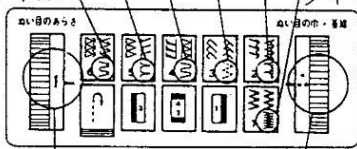
ジグザグ模様の合成縫い

模様選択ボタン
(グリーングループ)



送りダイヤル

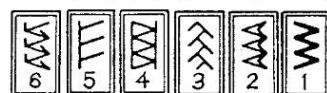
振巾ダイヤル



0.5~1

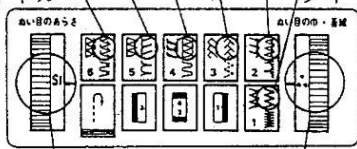
スーパー模様(S₁)の合成縫い

模様選択ボタン
(レッドグループ)



送りダイヤル

振巾ダイヤル



S₁

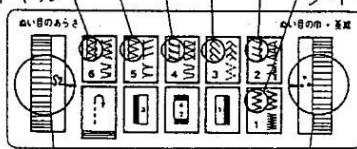
スーパー模様(S₂)の合成縫い

模様選択ボタン
(オレンジグループ)



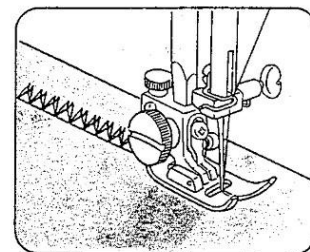
送りダイヤル

振巾ダイヤル



S₂

《縫い方》

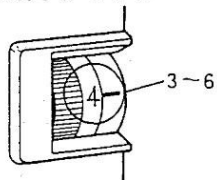


出来あがり線に合わせる模様の位置に注意して縫う。

●ピンタック

《セットのし方》

糸調子ダイヤル

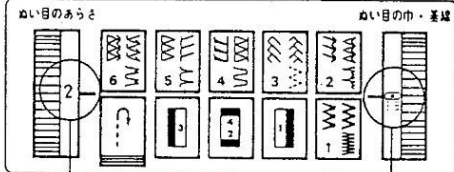


押え



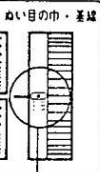
G くけ縫い押え

送りダイヤル



1.5~3

振巾ダイヤル

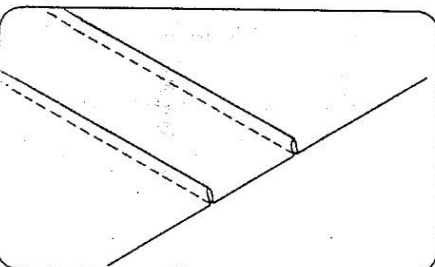
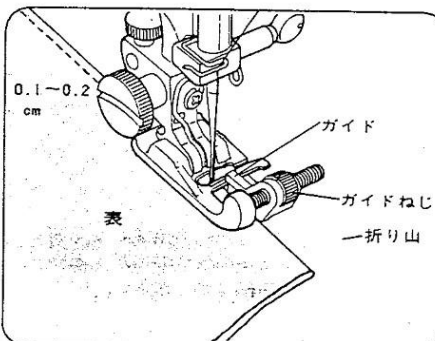


《縫い方》

①はずみ車を手前にまわして、針が折り山より0.1~0.2cm内側におるように布を置いて、押えをおろす。

②ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、縫う。

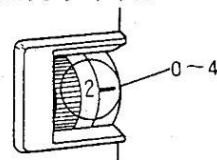
※布を前後にびんと張ってください。



●スマッキング

《セットのし方》

糸調子ダイヤル

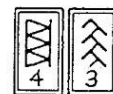


押え

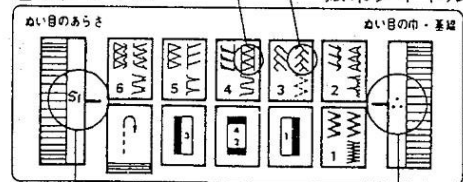


A 基本押え

模様選択ボタン (いずれか1つを選ぶ)



送りダイヤル



S1

振巾ダイヤル

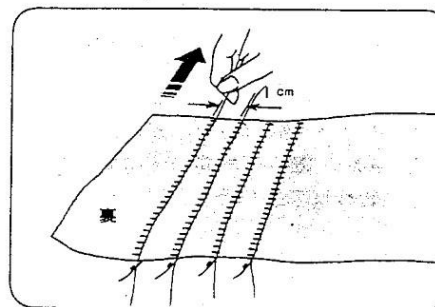


...

《準備》

①上糸調子を弱くし、縫い目のあらかさ0.3~0.4cmの直線で、1cmの間かくに数本縫う。

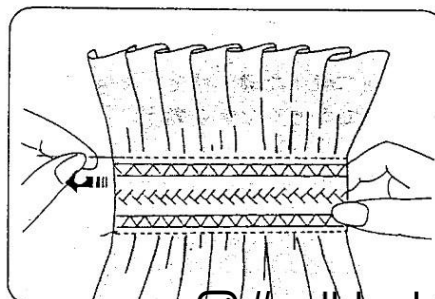
②一方の布端の上糸と下糸を、むすぶ。反対側から下糸を引いて、平均にひだをよせる。よせたひだが伸びないように、上糸と下糸をむすぶ。



《縫い方》

①直線縫いの糸と糸の間に模様縫いをする。

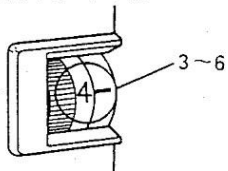
②直線縫いをした糸を抜きとる。



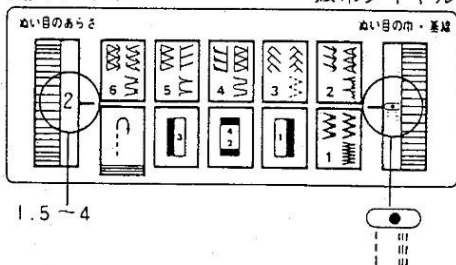
●キルティング

《セットの仕方》

糸調子ダイヤル

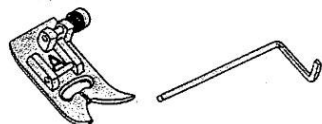


送りダイヤル



振巾ダイヤル

押え

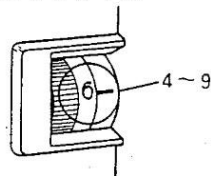


A 基本押え + H キルター(棒定規)

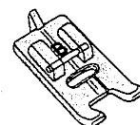
●シェルタック

《セットの仕方》

糸調子ダイヤル



押え

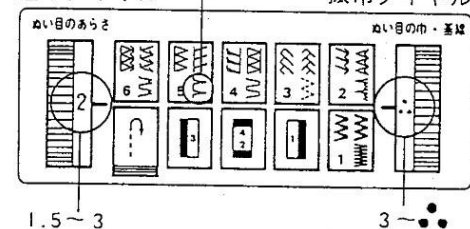


B ボタンホール押え

模様選択ボタン



送りダイヤル

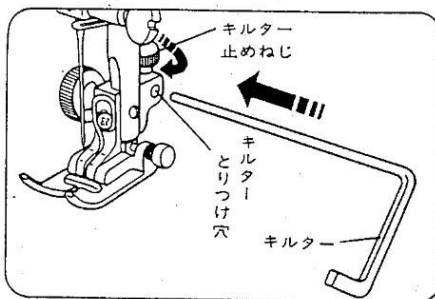


振巾ダイヤル

3-6

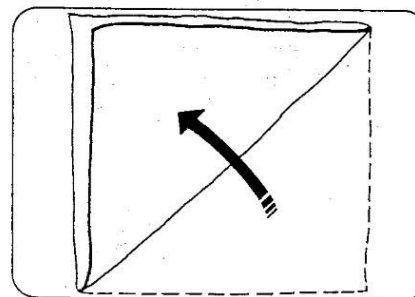
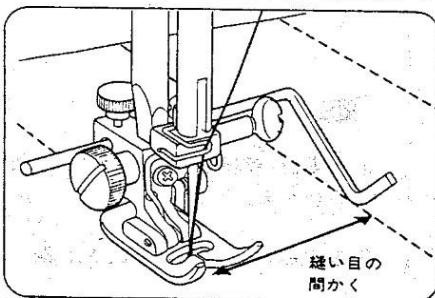
《キルターのつけ方》

キルター止めねじをゆるめて、キルター(棒定規)を、とりつけ穴に入れ、縫い目の間かくに合わせて、止めねじをしめる。



《縫い目》

前に縫った縫い目を、キルターの先でたどりながら縫う。



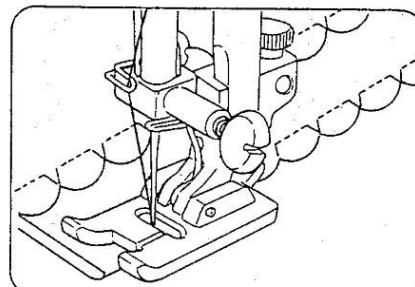
《縫い方》

①布を、バイアスに2つ折りにする。

※糸調子は「4」～「9」を目安に試し縫いをして、シェルタックの山がきれいにできるように調節してください。

②右の針位置が、布の「輪」の外側きわにおりるようにして縫う。

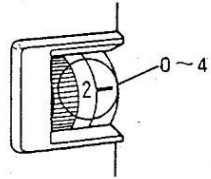
③布をひらいて、山をアイロンで片側に倒す。



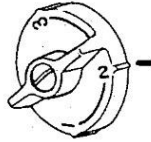
●アップリケ

《セットのし方》

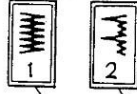
糸調子ダイヤル



押え圧ダイヤル

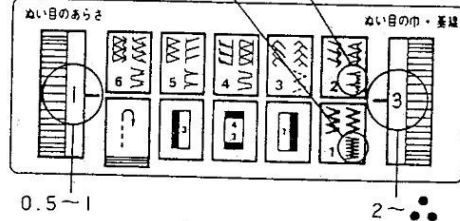


模様選択ボタン (いずれか1つを選ぶ)



送りダイヤル

振巾ダイヤル



押え



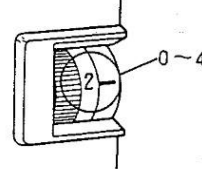
B ボタンホール押え

※模様選択ボタン②では、振巾ダイヤルは「3」〜「●」を目安に調節してください。
※縫い終わったら、押え圧ダイヤルを「3」に戻しておいてください。

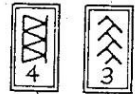
●パッチワーク(はぎ合わせ)

《セットのし方》

糸調子ダイヤル

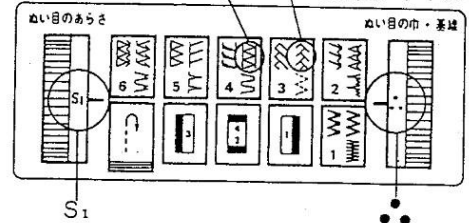


模様選択ボタン (いずれか1つを選ぶ)



送りダイヤル

振巾ダイヤル



押え



A 基本押え

S1

《縫い方》

糊づけ、または、しつけで止めたアップリケ布の、ふちの右に針がくるようにして縫う。

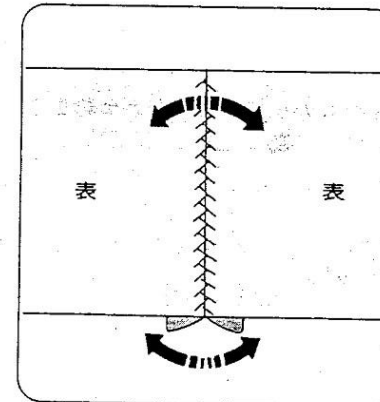
※急角度のところは、針をアップリケ布の外側にさしたままで向きをかえると、きれいに仕上がります。

《準備》

布を中表に合わせ、地縫いをして、縫いしろを割る。

《縫い方》

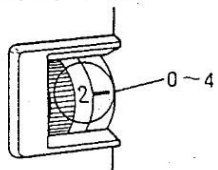
布の表から、地縫いの線を中心にして縫う。



●レースつけ

《セットのし方》

糸調子ダイヤル

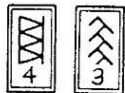


押え



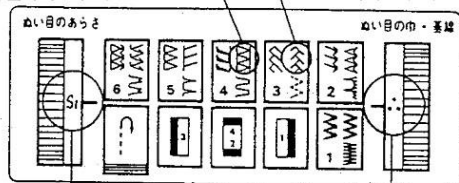
A 基本押え

模様選択ボタン (いずれか 1つを選ぶ)



送りダイヤル

振巾ダイヤル



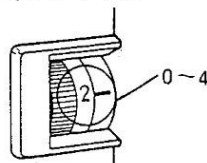
S₁

...

●ファゴティング

《セットのし方》

糸調子ダイヤル

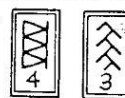


押え



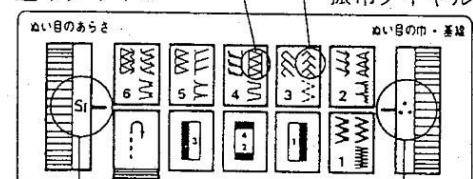
A 基本押え

模様選択ボタン (いずれか 1つを選ぶ)



送りダイヤル

振巾ダイヤル



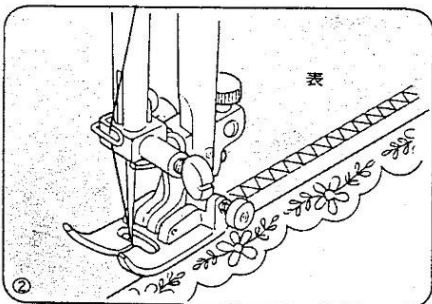
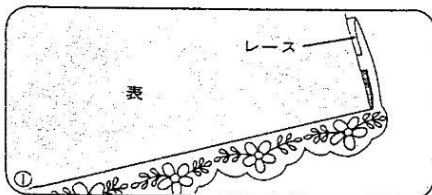
S₁

...

《縫い方》

①布端を裏側に、レースの端を、表側に折り返して、折り返した部分のふちを、突き合わせて重ねる。

②布の表から①の突き合わせ線を中心にして縫う。

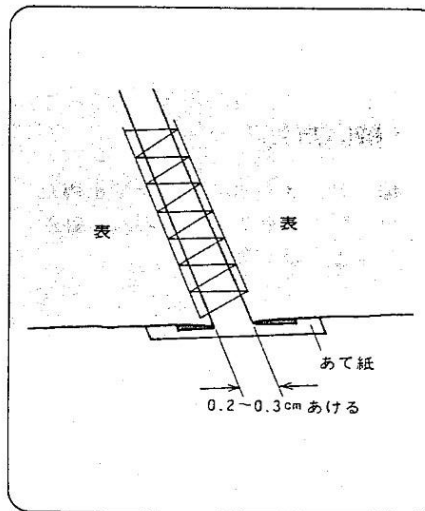


《縫い方》

①布端と布端の間かくを、0.2~0.3 cmあけて、裏にあて紙をする。

②布の表から間かくの中央を中心にして縫う。

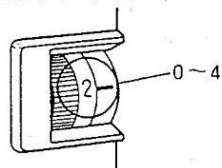
③あて紙をとる。



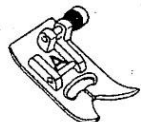
●ギャザーよせ

《セットのし方》

糸調子ダイヤル

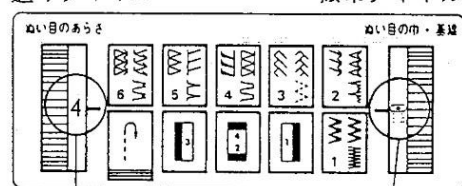


押え



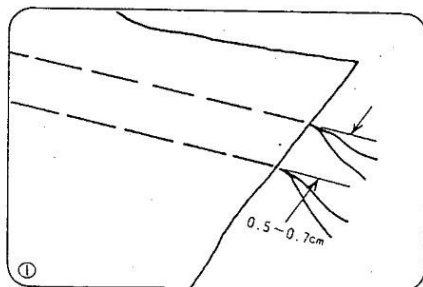
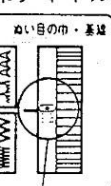
A 基本押え

送りダイヤル



3-4

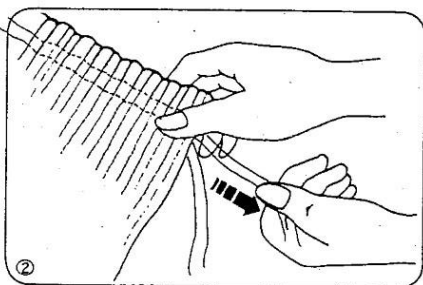
振巾ダイヤル



①

《縫い方》

① 0.5~0.7cmの間かくで、2本平行に縫う。



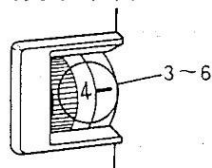
②

② 布を軽くつまみ、上糸はそのままにして、下糸を両側から引き、平均にひだをよせる。

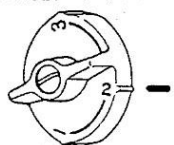
●ドロンワーク

《セットのし方》

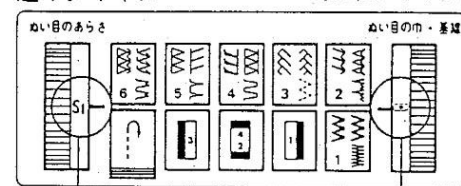
糸調子ダイヤル



押え圧ダイヤル



送りダイヤル

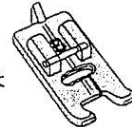


押え

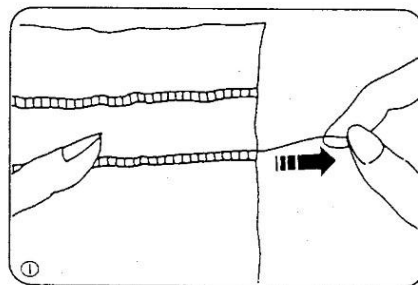


A 基本押え

または



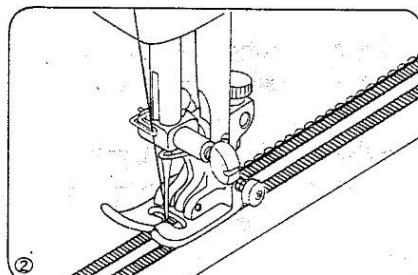
B ボタンホール押え



①

《縫い方》

① ドロンワークする部分の両わきの織り糸を、1~2本抜きとる。



②

② 左側の織り糸を、抜いた上を縫う。

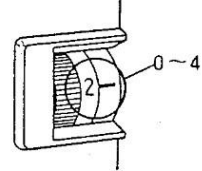
③ 右側の織り糸を抜いた上を縫う。

④ ドロンワークする部分の織り糸全部を、抜きとる。

●カットワーク

《セットの仕方》 押え圧ダイヤル

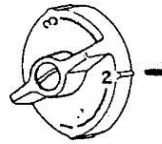
糸調子ダイヤル



押え

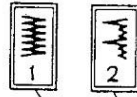


B ボタンホール押え

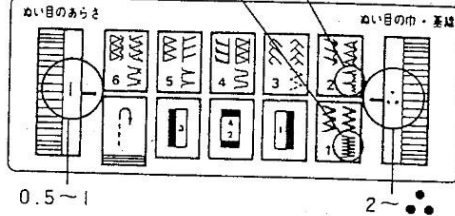


送りダイヤル

模様選択ボタン (いずれか 1つを選ぶ)



振巾ダイヤル

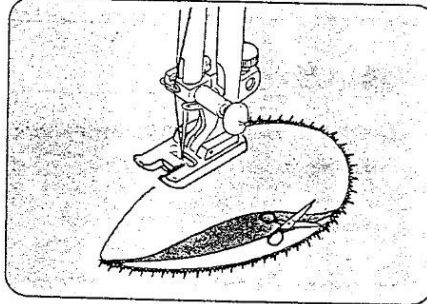


※縫い終わった後、押え圧ダイヤルを「3」に戻しておいてください。

《縫い方》

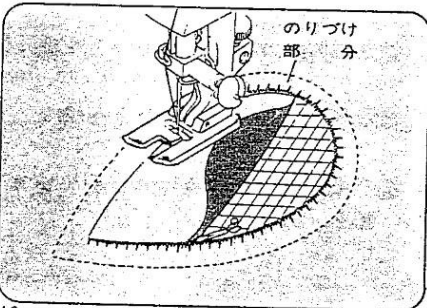
(A)

布の表から模様のふちをかがり、かがった糸を切らないように、中を切り抜く。



(B)

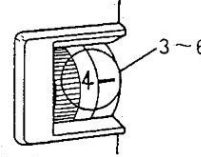
布の裏に、模様の内側にはみ出さないように、糊をつけ、チュールをはりつける。
布の表から模様のふちをかがり、かがった糸と布の下のチュールを切らないように、布を切り抜く。



●フリンジ縫い

《セットの仕方》

糸調子ダイヤル



押え



A 基本押え



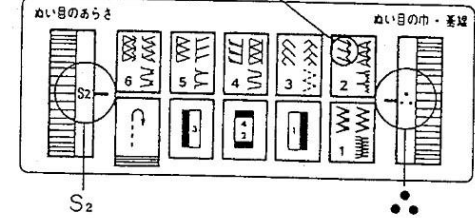
または B ボタンホール押え

模様選択ボタン



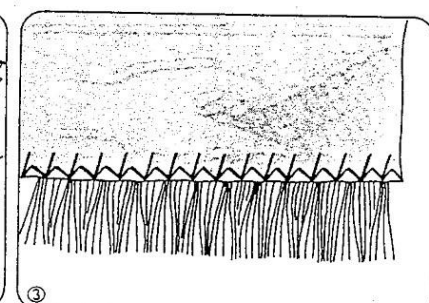
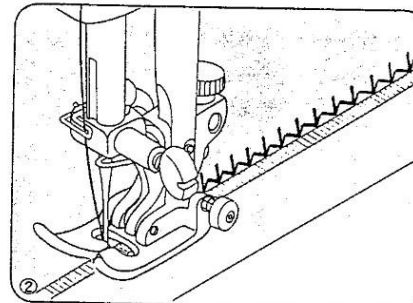
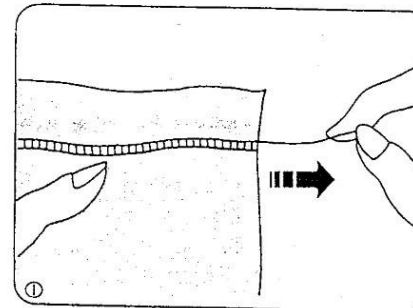
送りダイヤル

振巾ダイヤル



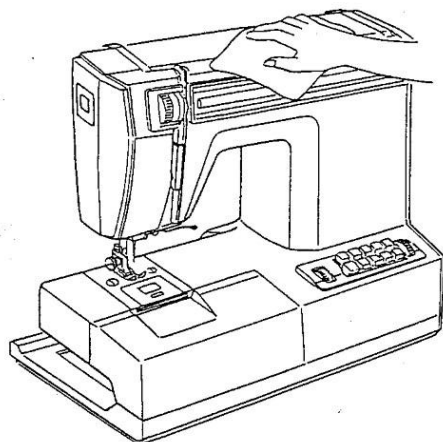
《縫い方》

- ① フリンジの束になる部分の織り糸を、1~2本抜きとる。
- ② 織り糸を抜いた上を、縫う。
- ③ フリンジする部分の織り糸全部を抜き、ふさを作る。



使用後は、ゆきとどいた手入れをして、ミシンをいつも、軽快に役立ててください。万一縫い調子がおもわしくない場合は、43～44ページを参照して調整してください。

●外装の手入れ



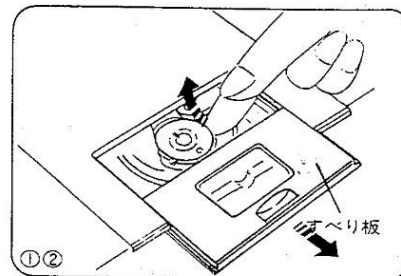
ほこりや油などの汚れは、水をつけずに、乾いたやわらかい布でふきとる。ポータブルケース、天板、面板、補助テーブルなどは、中性洗剤などで軽くふきとる。

※シンナー、ベンジン、みがき粉は、絶対使用しないでください。

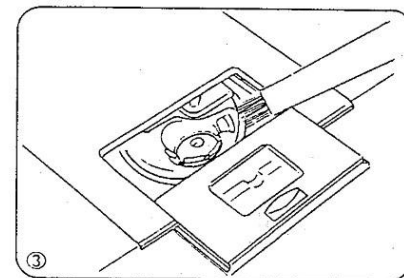
※手入れをするときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。

●かまの掃除

糸くずや、ほこりがつくと、縫い目じわや下糸切れなどの原因となり、また、故障の原因ともなりますので、使用の前後に確かめて、とり除いてください。針板をはずさないで、かまを掃除するときは、つぎの方法で行ないます。

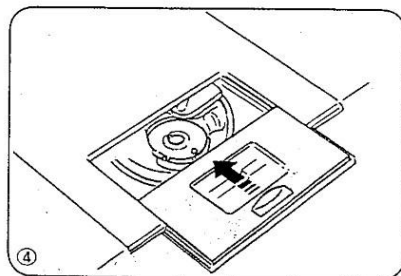


- ①電源プラグを抜く。
- ②すべり板をあけ、ボビンを取りだす。



- ③ごみをブラシで掃除する。

※ブラシで掃除しにくい乾いたゴミは、電気掃除機などで、吸い取ってください。



- ④ボビンを入れ、すべり板をしめる。

●かまと送り歯の手入れ

《準備》

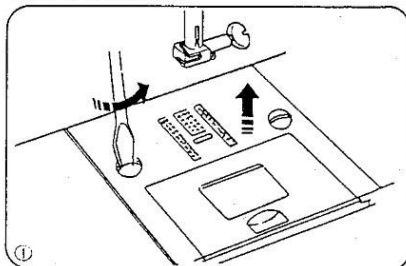
- ①電源プラグを抜く。
- ②針と押えホルダーをはずす。
- ③手入れを終えたら、針と押えホルダーをつける。

※針板をはずしてかまの掃除をするときは、送り歯の掃除をしてください。

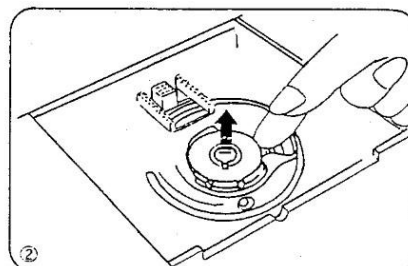
※ここに説明されている個所以外は、分解しないでください。

※このミシンは注油の必要はありません。

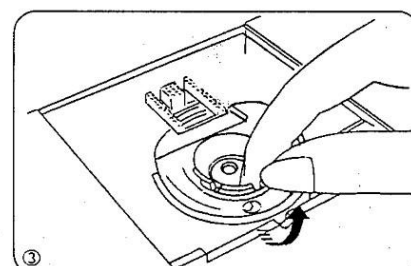
《かまの分解》



①針板のしめねじをゆるめ、針板をはずす。

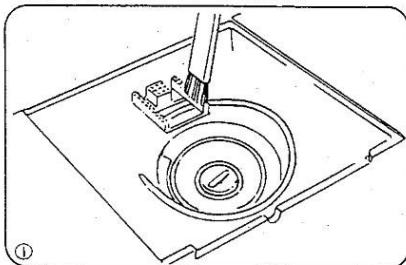


②ボビンをはずす。

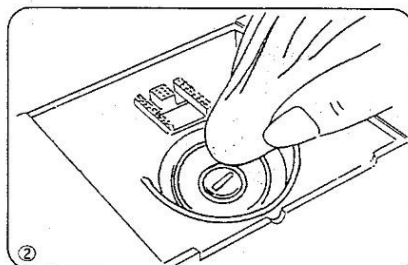


③内がまの手前を上へ引きながらはずす。

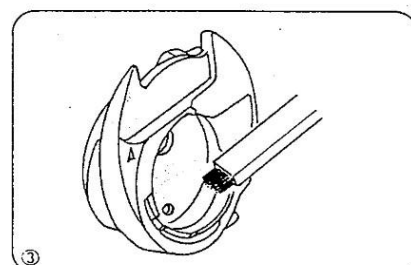
《送り歯とかまの掃除》



①送り歯のごみを、ブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除する。

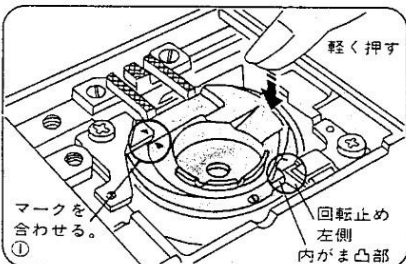


②外がまの中央部を、布切れで軽くふきとる。

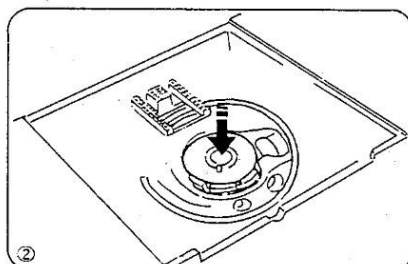


③内がまを、ブラシで掃除し、布切れで軽くふきとる。

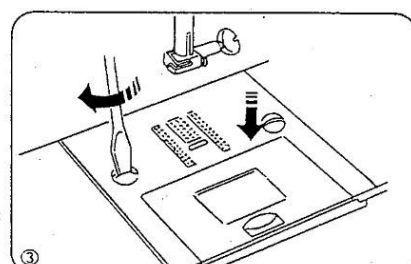
《かまの組立て》



①天びんを最上部にあげ、内がまの凸部が回転止めの左側に軽くふれるようにすべりこませ、▲マークを合わせる。



②ボビンを入れる。



③送り歯と針板の送り歯窓が合うように針板をのせてしめねじをしめる。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

※お問合わせの際は、つぎに書かれている項目をお読みになりながらお電話くださると、係員も故障の原因や個所がわかって便利です。

※お電話いただければ調整員がおうかがいしますから、必要以上に分解などなさないでください。

調子が悪い場合	その原因	直し方
音が高い、回転が出ない。	①かまの部分に糸くずが巻きこまれている。 ②送り歯にごみがたまっている。 ③モーターのカーボンブラシが摩耗している。 ④モーターが故障している。 ⑤スライドスイッチが「ゆっくり」になっている。	41～42ページ参照 42 ページ参照 直営支店へご連絡ください。 直営支店へご連絡ください。 スライドスイッチを「はやい」にする。
カラーシグナルがつかない。	①電気系統が故障している。	直営支店へご連絡ください。
上糸が切れる。	①上糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 ②上糸調子が強すぎる。 ③針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ④針のつけ方が、まちがっている。 ⑤針板の針穴にきずがついている。 ⑥縫い終わったとき布を向こう側に引いていない。 ⑦糸が針にくらべて太すぎるか、細すぎる。	13 ページ参照 15 ページ参照 10 ページ参照 10 ページ参照 直営支店へご連絡ください。 18 ページ参照 10 ページ参照
下糸が切れる。	①内がまに下糸の通し方がまちがっている。 ②内がまの中に、ゴミがたまっている。	12 ページ参照 41～42ページ参照
針が折れる。	①針のつけ方がまちがっている。 ②針がまがっている。 ③針止めねじのしめつけがゆるんでいる。 ④上糸調子が特に強すぎる。 ⑤縫い終わったとき、向こう側に布を引かなかった。 ⑥布にくらべて針が細すぎる。 ⑦布に針がささっているときに、模様選択ボタンを押したり、振巾ダイヤルをまわした。	10 ページ参照 10 ページ参照 10 ページ参照 15 ページ参照 18 ページ参照 10 ページ参照 17 ページ参照
縫い目がとぶ。	①針のつけ方がまちがっている。 ②針がまがっている。 ③布に対して針と糸が合っていない。 ④伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ブルー針を使っていない。 ⑤上糸の掛け方がまちがっている。 ⑥押え圧が弱い。	10 ページ参照 10 ページ参照 10 ページ参照 10 ページ参照 13 ページ参照 7 ページ参照

調子が悪い場合	その原因	直し方
縫い目がしわになる。	①上糸調子が、強すぎる。 ②上糸下糸の掛け方が、まちがっていたり、糸が、必要以外の部分にからみついている。 ③布にくらべて、針が太すぎる。 ④布にくらべて、縫い目があらずすぎる。 ⑤押え圧が、合っていない。 ※特にうすい布を縫うときは、下側に紙をあてて縫ってください。	15 ページ参照 12～14ページ参照 10 ページ参照 縫い目を細かくする。 7 ページ参照
縫い目に輪ができる。	①上糸調子が、弱すぎる。 ②糸にくらべて、針が太すぎるか、細すぎる。	15 ページ参照 10 ページ参照
布送りがうまくいかない。	①送り歯に糸くずがたまっている。 ②押え圧が弱い。 ③縫い目が、細かすぎる。 ④縫いはじめで、布が送られない。	42 ページ参照 7 ページ参照 縫い目をあらくする。 19 ページ参照
ミシンがまわらない。	①コンセントに、プラグがきちんとさしこまれていないか、つなぎ方がまちがっている。 ②かまの部分に、糸が巻きこまれている。	6 ページ参照 41～42ページ参照
ボタン穴かがりがうまいかない。	①布に対して、縫い目のあらかさが合っていない。 ②伸縮性のある布のとき、伸びにくい芯地を使っていない。 ③縫うところの布の厚みに、差がある。 ④布に、無理な力が加わっている。	24 ページ参照 24 ページ参照 26 ページ参照 24 ページ参照
糸通しを操作しても上糸が針穴に通らない。	①針にくらべて、糸が太すぎる。 ②針がまがっている。	14 ページ参照 10 ページ参照

※ジャノメミシンでは、全国550の直営支店で万全のアフターサービスをいたしております。この本でかかれている方法で調整できないときは、お取り扱い支店、最寄りの当社支店または下記「お客様相談窓口」へご連絡下さい。

本社客先相談室	TEL 03(277)2200	札幌支店	TEL 011(261)5671	仙台支店	TEL 0222(21)3591
新潟支店	TEL 0252(41)8661	東京支店	TEL 03(272)0921	大宮支店	TEL 0486(41)2975
千葉支店	TEL 0472(22)5121	名古屋支店	TEL 052(733)5116	大阪支店	TEL 06(213)1635
尼ヶ崎支店	TEL 06(481)2193	広島支店	TEL 0822(28)5181	松山支店	TEL 0899(31)8148
福岡天神支店	TEL 092(712)0721	鹿児島支店	TEL 0992(25)2200		



ジャノメマシン

蛇の目マシン工業株式会社
東京都中央区京橋3-1-1 TEL(3277)2200